



2018

# 松山アーバンデザインセンター 年間報告書

Urban Design Center Matsuyama  
Annual Report 2018

# 目次

はじめに	05
今年度の取り組み概要	08
<b>空間デザインマネジメント</b>	10
SD 1. 松山 2060 ヴィジョン	11
SD 2. 道後温泉活性化	14
SD 3. 松山市駅前空間改変事業	18
SD 4. JR 松山駅周辺整備事業	24
SD 5. 賑わい再生社会実験拠点整備	28
<b>プログラムデザイン</b>	31
PD 1. 松山市中心市街地賑わい再生社会実験	32
PD 2. アーバンデザインスクール	41
PD 3. 移動する建築	49
PD 4. メディア制作	54
PD 5. 松山動線 2050 スタディツアー	60
<b>研究活動等</b>	63
1. アーバンデザイン研究会	64
2. 社会実験の効果検証	65
3. 「地方中核市におけるアーバンデザインセンターの実践 松山アーバンデザインセンターを事例に」	67
4. 全国まちなか広場研究会& UDC 会議	70
おわりに	73
<b>資料</b>	
活動履歴	74
メディア掲載リスト	78
UDCM 運営体制	79





## はじめに

昨年(2017年)の7月7日、松山市の島しょ部から高浜地域の一帯が、梅雨末期の集中豪雨に見舞われました。怒和島では、小学3年生と1年生の姉妹とお母さんの3人が土石流に巻き込まれて犠牲になりました。全校児童数6名の怒和島の小学校に通っていた姉妹は、人口300人ほどの島の宝でした。また、高浜地域でも多くの土石流が発生し、甚大な被害が発生しました。犠牲者が出なかったのが、不幸中の幸いでした。愛媛県下でも、宇和島市、西予市、大洲市で、平成で最悪の被害が発生しました。防災まちづくりの重要性を再認識させられた7月豪雨災害でした。

今年の4月15日には、ノートルダム大聖堂が大規模な火災に見舞われ、尖塔も炎に包まれて崩壊してしまいました。松山でも、2013年8月に、一遍上人の生誕地である道後の宝厳寺が全焼し、国の重要文化財である「木像一遍上人立像」が焼失してしまいました。奪われてしまった人の命は蘇りません。また、ノートルダム大寺院や木像一遍上人立像なども焼失してしまえば、文化財としての価値は水泡に帰してしまいます。

まちづくりには様々な観点が必要です。聖徳太子は、国を治めるのに17条の憲法を定めて法治国家の礎を築き、それとともに仏教を国教とすることにより日本人の精神の原点を定めました。これは人間に目に見える体と目には見えないが存在している心があるように、国にも体と心が必要だからです。それと同様に、まちにも形としての建造物や道路網などとともに形を作り上げる理念が必要です。

平成30年度に、UDCMは松山市の将来ビジョン作成に向けて本格的に検討を開始しました。今を遡ること120年前、まだ決して豊かでない時代に、道後湯之町町長である伊佐庭如矢が道後温泉本館の整備を通してまちづくりに取り組みました。「この道後温泉が100年たっても真似の出来ない物を造ってこそ意味がある」との信念のもと、後世に残る偉業を成し遂げました。それが、今日の松山の観光地のシンボルとして多大な役割を果たしています。道後温泉本館は、今年の1月15日から7年間の予定で保存修理工事が始まりました。伊佐庭如矢の

## 松山市都市再生協議会会長 矢田部 龍一

熱い思いとともに、道後温泉本館を次の世代に引き継ぐことは、もっとも繁栄した時代を生きる私たちに課せられた使命です。

銀天街のL字地区で産声を上げたUDCMは、2018年末に花園町通りに移転しました。花園町通りは、JR松山駅前と並んで、松山の顔ともいえる地区です。花園町通りの活性化に寄与することが期待されます。また、市駅前広場の整備事業も佳境に入ってきました。JR松山駅から堀之内公園、そして、花園町通り、市駅前広場、銀天街から大街道、そしてロープウェイ街、道後温泉に繋がる道は、松山城を眺望しながら、歴史と文化、そして世界とのつながりを感じることができるといえる豊かな空間です。UDCMが先頭に立って、伊佐庭如矢以上の溢れるような想いを持って、後世に残すことができるまちづくりに取り組んで頂けるよう願います。

# 2018年度プロジェクトマップ

空間デザインマネジメント (2018-)  
松山 2060ヴィジョン

p.11~13

松山の将来像の構築プロジェクトをスタートさせた。今年度は、関係者へのインタビューをもとにヴィジョンの枠組みを構築し、今後の検討課題を整理した。また、空間像の検討を行うことを目的としたアーバンデザインスタジオ（設計演習）を開講した。



スタジオ、エスキス風景



第一回松山駅まち会議の様子



『景観づくりのポイント』（松山市, 2018年発行）

空間デザインマネジメント (2018-)  
松山駅まち会議

今年度より基本計画を検討するための「松山駅まち会議」が発足され、当会議に委員として参画した。

p.27

空間デザインマネジメント (2018-)  
松山駅周辺まちづくりに関する  
土地利用勉強会

松山市の主催する JR 松山駅周辺まちづくり土地利用勉強会に参画し、『景観づくりのポイント』策定等を支援した。

p.25~26



花園町通りで行なった「こたつ de みかん」

p.38~40

プログラムデザイン (2018-)

松山市中心市街地賑わい再生社会実験（花園町）

松山市からの委託を受けて、松山市が花園町通りに設置した「もぶるラウンジ」の運営及び新たな道路空間の活用プログラムについて企画・実施した。



勉強会の様子

p.19~23

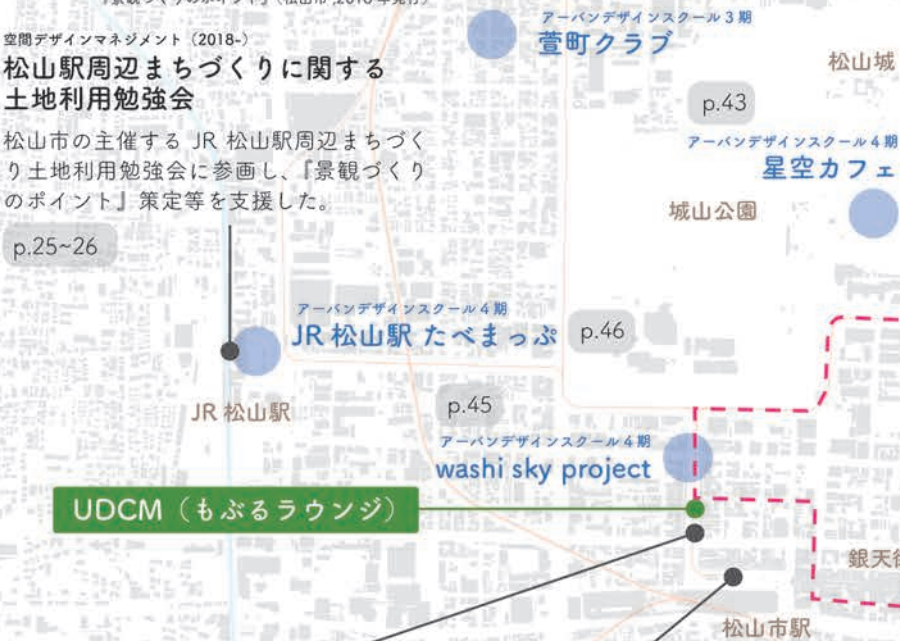
空間デザインマネジメント (2018-)

松山市駅前商店街勉強会

将来的な駅前広場の空間改変に向け、松山市駅前商店街が主催する「松山市駅前商店街まちづくり事業」をディレクションした。並行してまちづくり勉強会を開催し、まちづくりのコンセプトに必要な知見を収集・分析した。



商店街と連携したみんなのひろばでのイベント開催風景







ファサード整備イメージパース

空間デザインマネジメント (2018)

p.15 **椿通りファサード整備事業**

2017年に竣工した飛鳥乃湯泉の前面道路(椿通り)の景観整備を行うため、商店街アーケードの改修も含め沿道のファサード整備事業(基本設計)を松山市から受託し実施した。

空間デザインマネジメント (2018)

p.16-17 **道後温泉本館保存修理工事に伴う交通影響緩和策検討**

松山市が行う本館保存修理工事時の交通影響緩和策検討等に関して助言した。

空間デザインマネジメント (2018-)

**一番町再開発**

一番町一丁目・歩行町一丁目地区で進められている市街地再開発事業。適宜情報共有を行っている。

プログラムデザイン (2017-)

**街の中の雲**

p. 51-53

「移動する建築 (2017)」の続編。パンバタカユキ氏、道後温泉誇れるまちづくり推進協議会と共同し、道後オンセナート 2018 の地元プロジェクトとして「街の中の雲」vol.2,3 を実施した。



「街の中の雲」開催風景 (写真:元屋地伸広)

道後温泉

アーバンデザインスクール4期

**夕焼けベンチ in 宝蔵寺** p.48



スタディーツアーの様子

start

goal

p.60-62

プログラムデザイン (2018)

**松山動線 2050 スタディーツアー**

日本デザイン振興会協力のもと、今年度グッドデザイン賞を受賞した三作品(花園町通り・飛鳥乃湯泉・移動する建築)を紹介するツアーを企画・実施した。

空間デザインマネジメント (2017-)

**銀天街L字地区再開発**

銀天街L字地区で進められている市街地再開発事業。適宜情報共有を行っている。

start  
アーバンデザインスクール4期  
**俳句スーパ**

p.47

アーバンデザインスクール4期  
**光の展覧会 in 柳井町** p.44

**IB UDCM**  
(みんなのひろば・もぶるテラス)

p. 33-37

プログラムデザイン (2016-2018)

**松山市中心市街地賑わい再生社会実験 (湊町)**

松山市からの委託を受けて、ひろばとテラスを運営。プログラム実施を通じた賑わい創出を目的に、テーマに特化した自主事業を9企画、全17回(展示を含む)実施した。また、これまでの商店街回遊イベントへの参加に加え、周辺商店街等との連携事業に積極的に取り組み、3企画を実施した。



もぶるマガジンの表紙

プログラムデザイン (2014-)  
**情報発信**

p.54-59

市民編集部によるまちなかマガジン「もぶる」の発行、FM愛媛「まちらヂ」の企画制作等の情報発信を行なった。



まちらヂ収録風景



スクール基礎編の様子

プログラムデザイン (2014-)

p.41-48

**アーバンデザインスクール**

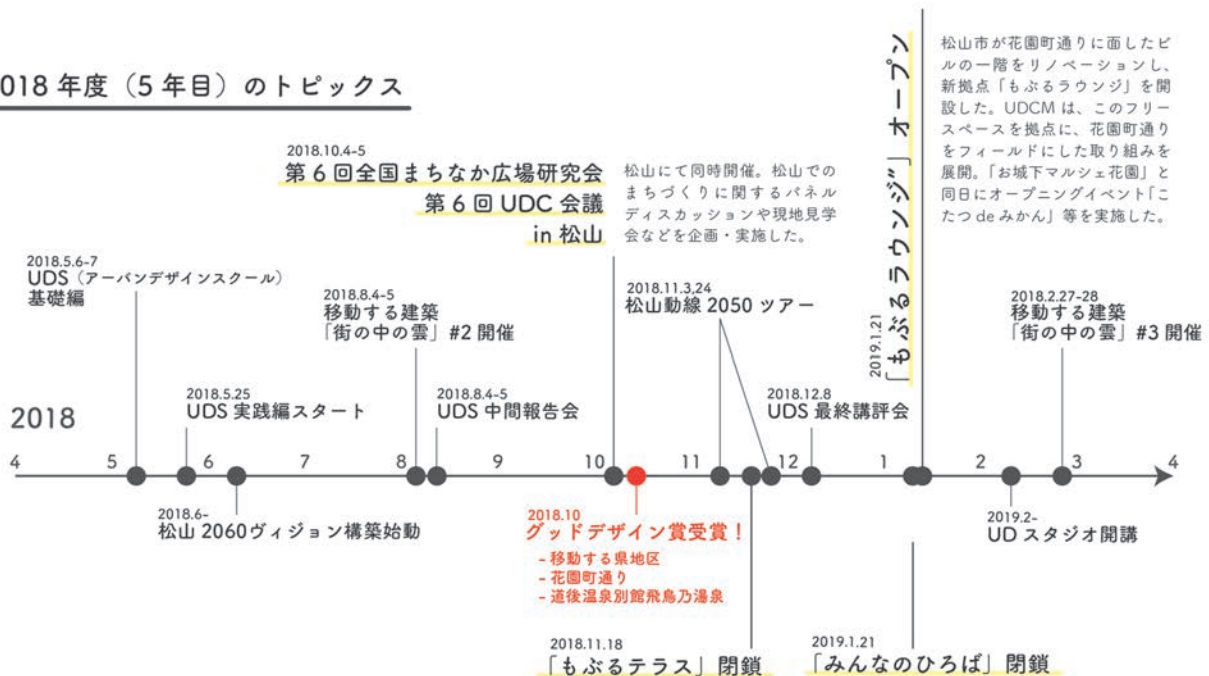
昨年度からの継続事業(かやまちクラブ)に加え、今年度は30名が6グループに分かれて活動を実施した。

※詳細は UDS 報告書を参照



## 今年度の取り組み概要

### 2018年度（5年目）のトピックス



アーバンデザインセンター（UDC）は、行政や市民、大学の枠組みを超え、地域に係る各事業主体が連携し、都市デザイン等の専門家が客観的立場から都市計画やまちづくりに携わる新たな形の組織や拠点として、全国19箇所に展開している。松山アーバンデザインセンター（UDCM）もその一つで、2014年2月に松山市都市再生協議会という、行政・企業・大学の協力体制が生まれ、同年4月に愛媛大学に設置された。同年11月には、拠点施設を愛媛大学から銀天街から少し離れた湊町3丁目のL字地区に移し約4年間活動してきた。2019年1月からは花園町の空きビルをリノベーションして活動の拠点とした。年度途中に拠点を移動しての活動となったが、この1年間を振り返ってみる。

まず、「空間デザインマネジメント」である。松山市では、現在様々な都市基盤の整備事業が同時並行的に進行している。まちづくりは、一体的総合的な方針のもとに整合を図りつつ進めるべきものであるとの認識のもと、これら事業が、全体として、これまで以上に連携し合い、相乗効果を生み出す一体的なものとなるよう、四戸ディレクターにより松山全体の都市ビジョンと地域デザインの再構築を進めている。

「道後温泉活性化事業」では、前年に策定した「椿通り景観整備基本構想」に基づいて各建物の基本設計を行い「椿の湯周辺のファサード整備」を支援した。その後、道後温泉ファサード整備協定運営委員会によって、道後商店街のアーケードの側面壁の改修や民間建物4棟の整備が終了し、「椿の湯周辺エリア」一連の整備工事が完了した。また、道後温泉本館保存修理工事に伴う「交通影響緩和策検討」では、交差点の方向別交通量調査やナンバープレート調査などによる交通実態調査を実施、そのデータを活用して交通シミュレーションを行い、交通影響の見える化につなげた。また、工事における混雑緩和策として、現地に設置する看板の制作・設置やホテル・旅館宿泊者、地区内の居住者に案内するためのチラシ等、広報媒体を制作した。今後も、工事期間が約7年と長期にわたることから地域経済への影響を出来るだけ及ぼさないように地元や行政とも連携・協力しながら支援していく。

「JR松山駅周辺整備事業」では、「松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会」（地権者・テナント・建築士会・大学生・UDSM スクール生で構成）のプログラムデザインおよび運営支援を行なった。今年度は、景

観計画に則った駅前将来イメージパースの制作に加えて、勉強会参加者でチームを組んで駅前でのソフト的活動実践を行った。また、2019年1月より立ち上げられた「松山駅まち会議」に委員として出席し、駅前広場の基本計画の検討に参加した。「松山市駅前交通広場空間改変」では、松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会鉄道検討部会へ委員参加し、駅前広場のレイアウト検討を行うなど、松山市内の2大交通結節点の整備に向けて支援した。

新拠点「もぶるラウンジ」のデザインマネジメントでは、花園町通りのデザインガイドラインに則ったファサードとし、通りに開く設えとした。内部は、まちづくり活動の拠点運用に加え、場所の特性や文化芸術振興（松山ブンカラボ）との連携を強めていくことを想定し、ギャラリーを意識した空間とした。

次に、「プログラムデザイン」である。2014年11月に開設した「アーバンデザインスクール」は、今年4期目を迎え運営体制を大きく変更した。まず基礎編・実践編を分離開催し、実践活動の密度を落とさずにまちづくりの担い手の裾野を広げるなど、習熟度に応じた講座となるよう工夫をした。また、実践編では四大学連携の持ち味を生かし、それぞれのグループに担当教員がはりつくゼミ形式とし、愛媛大学の松村暢彦教授、羽鳥剛史准教授、山中亮准教授、片岡由香助教、松山大学の河内俊樹准教授、聖カタリナ大学の齋藤拓真助教、松山東雲女子大学の河原理講師の指導のもと、30名が6つのグループに分かれてプロジェクトの企画・実践に取り組んだ。UDCM常勤スタッフは全体調整や都市整備プロジェクトとの連携、地元キーパーソンとのつなぎ役を行った。

「松山市中心市街地賑わい再生社会実験」のうち、湊町3丁目の「もぶるテラス」では、テーマに特化したプログラムや商店街回遊イベントへの参画、個人・団体・店舗主催イベントの開催支援などを行った。この他にも、図書コーナーのキーワード表示・分類（まちづくり、暮らし、歴史など）を行い、利用促進を図った。社会実験の活動拠点が花園町へ移転することに伴い、「もぶるテラス」の供用は2018年11月18日で終了したが、テラスで育ったイベント「星空散歩」が11月23日に道後で開催される等、担い手育成の効果がみられた。「みんなのひろば」は、社会実験の終了に伴い、2019年1月27日に閉鎖し

たが、周辺の再開発事業で新たなまちなか広場が整備されることを見据え、広場を活用した商店街・周辺店舗との連携企画や、市民が主体となった活動への支援を行い、空間を活用して賑わいをつくり出す担い手育成を進めた。「みんなのひろば」と「もぶるテラス」は、開設以来、約4年間で30万人を超える人々に利用していただいた。幼児やOL、学生、高齢者など多様な世代の方々の交流や憩いの場が無くなるのは残念であるが、今後は、新拠点である「もぶるラウンジ」や道路などの公共的な空間を活用して、新たな賑わい再生のための社会実験を実施していく。

新拠点「もぶるラウンジ」は、2019年1月20日に花園町通りにオープンし、まちづくりに関する図書の充実化や、現在行われている活動の情報発信を進めた。ラウンジ内に設置されたタッチパネル式の特設モニター「CityScope（日立東大ラボ提供）」は、松山のまちなかでの人の動き等、各種都市データの可視化、アイデアのプロットや試算が可能であり、情報発信ツールとしての具体的な活用方法を提供者と協議・検討を行った。UDCMの活動拠点は湊町3丁目から花園町通りに移ったが、今後も引き続き現地の「まちづくりの拠点」として、地域の文化的、歴史的な資源を活かしながら行政や市民、住民の皆さんと連携して賑わいのある魅力的なまちの実現に向けて取り組みたい。



写真 もぶるラウンジオープンイベントの様子



# 空間デザインマネジメント

SD 1. 松山 2060 ヴィジョン	p11-
SD 2. 道後温泉活性化	p14-
SD 3. 松山市駅前空間改変事業	p18-
SD 4. JR 松山駅周辺整備事業	p24-
SD 5. 賑わい再生社会実験拠点デザイン	p28-



SD1

## 松山 2060 ヴィジョン

昨年度のロジックモデルを用いた UDCM の自己評価・課題抽出結果から、地域のシンクタンク機能を担う組織として「都市ヴィジョン構築」の取組目標が設定された。今年度は、関係者へのヒアリングを行い、ヴィジョン策定の趣旨と骨子をまとめた。

(1) 松山 2060 ヴィジョンの構築  
事業主体：UDCM



## (1) 松山 2060 ヴィジョンの構築

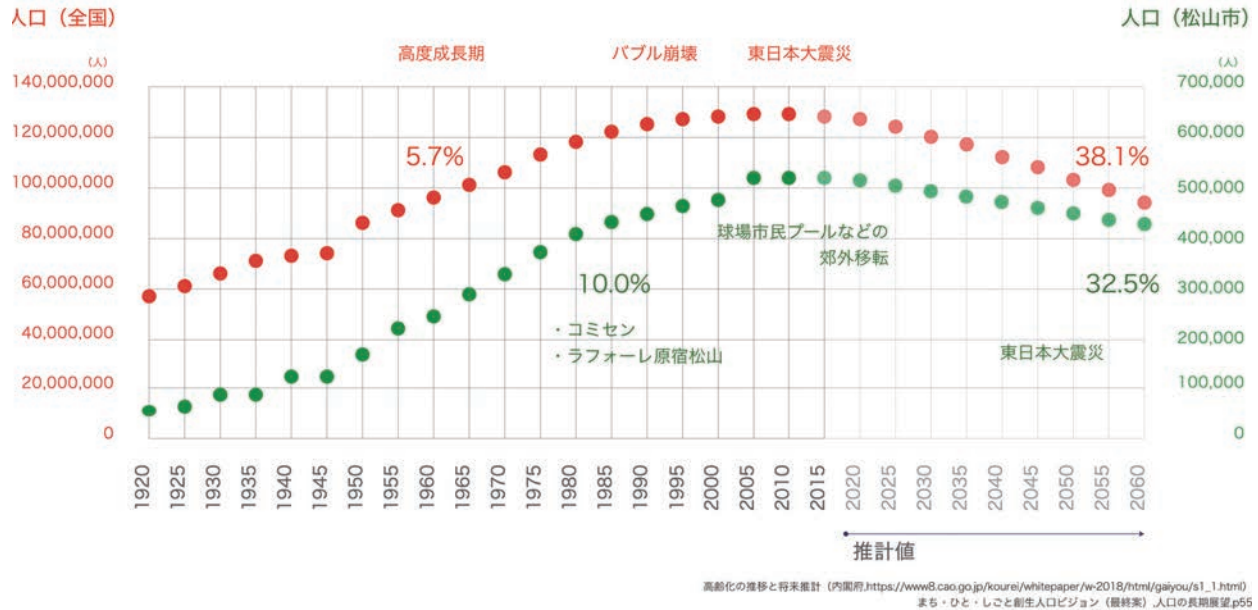


図 松山市と全国の人口推移予測と高齢率の変化

### 1) 背景

日本の多くの自治体は人口減少に転じ、松山市においても、2011年を境に人口減少局面に突入した。戦後復興、高度成長期を経て作り上げられた生活環境は、これから先、また大きな変化を余儀なくされている。限られた財源の中で、これまで建設されたインフラを維持管理し、膨大に増えていく社会保障をまかないつつも、より豊かな都市空間の形成が求められている。「歩いて暮らせるまちづくり」をまちづくりのコンセプトとしている松山市では、そうした将来像のキーワードが見えているものの、総合的(全体的)な将来の空間像については未だ描ききれていないのが現状である。今後2つの大きな駅周辺の都市整備事業、また市内初事例となる再開発事業が予定されている松山市において、個別の事業を横つなぎし、様々な社会問題を総合的に捉えながら事業を進めるための将来ヴィジョンの構築は喫緊の課題といえる。

どの時点の将来像を描くべきか、といったとき、一つの基準となるのはその都市の規模(人口)である。例えば、2060年時点での推計人口は、全国で9,284万人、松山市で42.3万人とされる。過去にこれと同程度の人口がいたのは、全国では1960(昭和35)年(9,430万人)、松

山では1985(昭和60)年(42.3万人)であった。1960年頃は、高度経済成長期に入り東京五輪を控えた時期、1985年頃は、松山市においてラフォーレ原宿・松山が開店(1983年)、また松山市総合コミュニティセンターが落成した頃であり、いずれも人口増大期の都市整備が盛んに行われていた時代であるといえる。こうした時期との比較は一つの基準となりえるだろう。成長期と今後の縮退期とを照らし合わせながら、これから予想される問題を提起する上では、2060年という年代設定は有効であるように考えられる。

また、あるべき将来に向けた直近の具体的施策も検討したい。冒頭で述べたように、松山市では大きな事業を抱えていることから、その計画にも応用可能な次元の計画についても検討する必要がある、これは松山市だけに限らず、民間企業に対しても同様である。このヴィジョン構築のプロセスには、実務にあたる方々を巻き込む必要があると考えている。



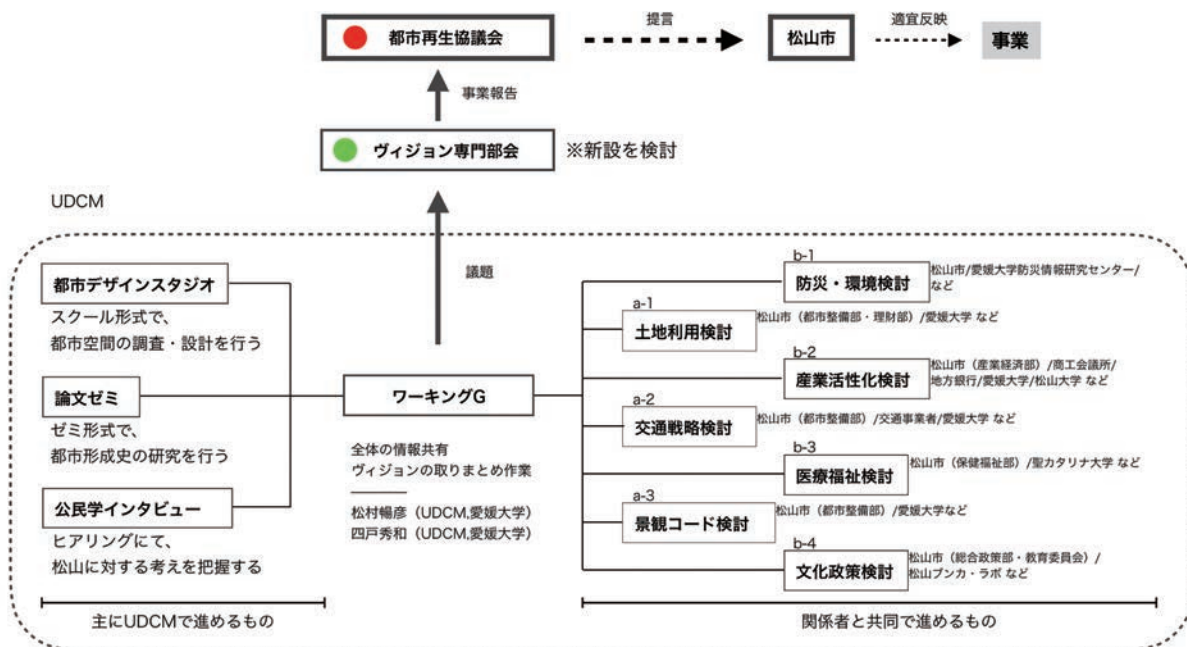


図 ヴィジョン構築体制

## 2) 進め方とスケジュール

関係者ヒアリング及び協議をもとに約3年にわたる作業フローの整理と協力体制づくりの検討を行なった。ビジョン構築は、大きく3つの取組に分けて考えることとした。すなわち「骨子作成」「専門家協議」「公開議論」である。

本年度は、「骨子作成」のため、UDCMの関係者へのインタビューを実施し、ビジョンに必要なキーワードを整理し、VISIONの構成案を作成した。

本VISIONは、今度交通関連の詳細調査が行われることも踏まえ、2021年度末の策定として、約3年間のスケジュールを整理した。

また、VISIONの構成案に従い、その構築体制について検討した。

まずは、VISION構築の基礎となる地域の歴史（都市形成史）を把握するための論文ゼミを開講し、研究を進めることとした。

検討キーワードとして出された項目を検討するためには、UDCMだけでなく、外の機関とも共同して進めていく必要があるため、7つの検討会を設置し、そこにおいて議論を進めていくこととした。

最終的に、都市の将来像を空間デザインに落とし込むために、都市デザインスタジオを開講し、各種検討と並行して空間スタディを行うパートを設定した。

VISIONの骨子作成において取り組んでいた関係者へのインタビューは、多様な関係者をこのVISION構築の取組に巻き込んでいくことを意図し、VISIONの策定まで引き続き継続することとした。

最終的に構築されたVISIONは、都市再生協議会に提案し、都市再生協議会から松山市に提言することを検討・調整している。

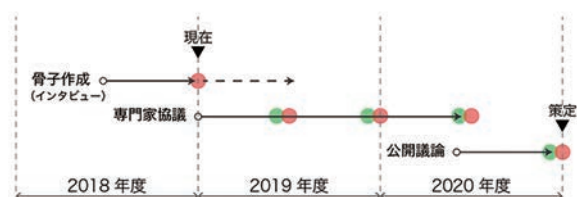


図 ヴィジョン構築スケジュール

## SD2

# 道後温泉活性化

道後温泉活性化基本計画で重点整備エリアに位置付けられる

「椿通りファサード整備事業」を委託を受けて行った。

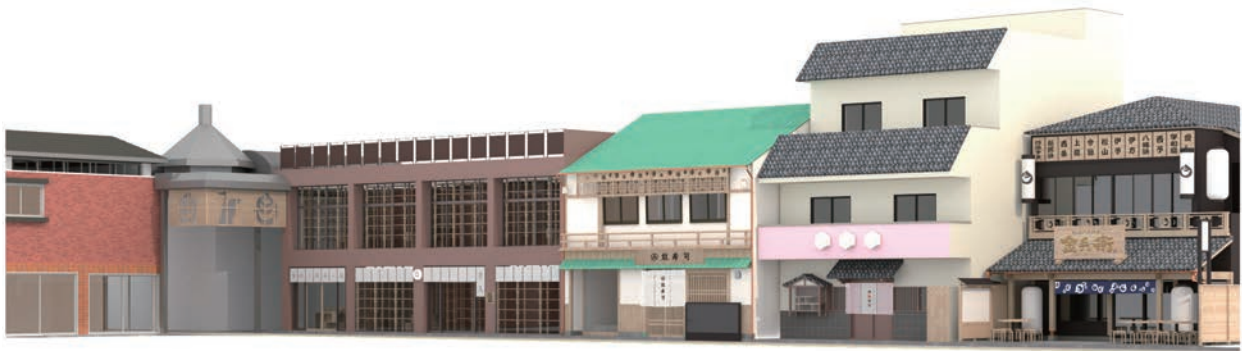
また、道後温泉本館が約7年かかる保存修理工事をスタートさせるにあたり、松山市の道後温泉周辺への交通影響緩和策の検討を支援した。

- (1) 道後温泉椿通りファサード整備事業  
事業主体：松山市役所 / 設計者：UDCM (委託契約)
- (2) 道後温泉本館保存修理工事に伴う交通影響緩和策検討  
事業主体：松山市役所 / オブザーバー支援：UDCM





## (1) 椿の湯周辺ファサード整備事業



ファサード整備イメージパース

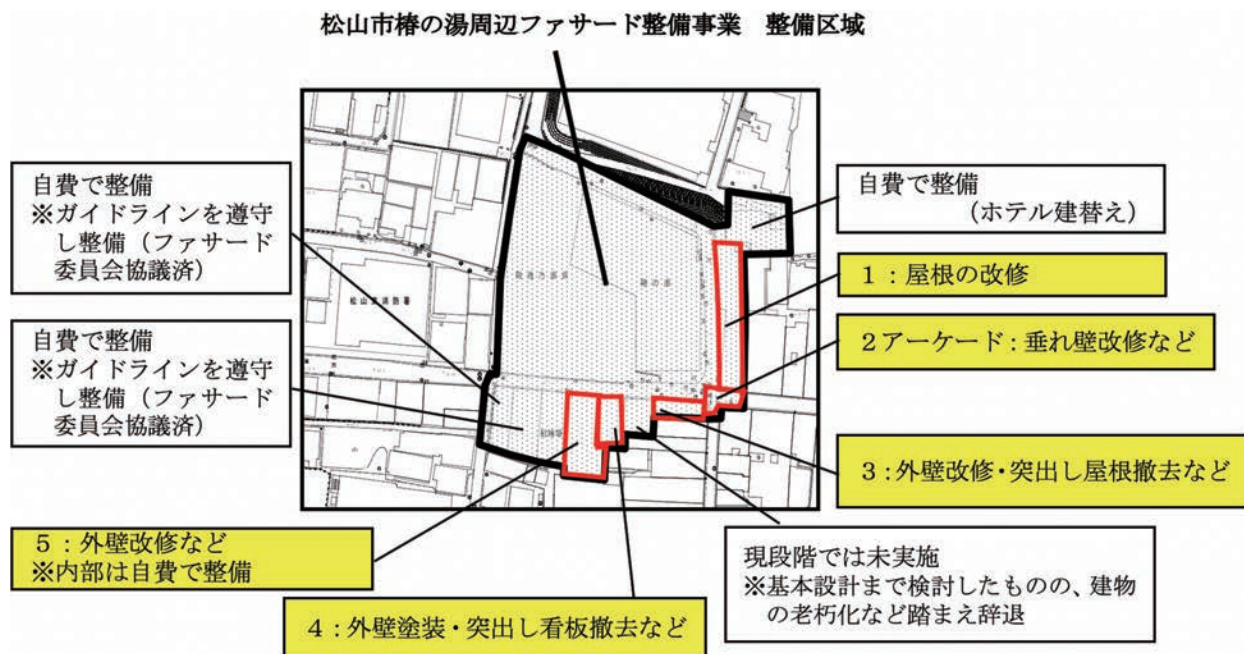


図 ファサード整備区域

「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」が平成29年9月に完成した後、中庭の整備や周辺道路の電線類地中化、景観整備が同年12月に終了した。それにあわせて、UDCMでは平成29年度に「椿の湯周辺ファサード整備事業基本構想」を策定、平成30年度は基本構想に基づいて商店街のアーケードや民間建物の基本設計を行うなど、椿の湯周辺のファサード整備を支援してきた。通りの建物はすべて店舗であることから、すべてを統一のデザインで揃えるのではなく、それぞれの店舗の個性を活かし、通りを様々なデザインの店舗が並んでいる状態と

し、それらの店舗を見ながらこの通り歩く人が増えることを目指して基本設計を行った。

道後温泉ファサード整備協定運営委員会により商店街のアーケードの側面壁や民間建物4棟のファサード整備が完了するとともに、整備区域内の民間建物2棟はガイドラインを遵守して自費で整備を行った。

## (2) 道後温泉本館保存修理工事に伴う交通影響緩和策検討



交通規制チラシ

交通影響緩和策の策定にあたり、道後温泉地区の交通流動等を把握することを目的として交差点の方向別交通量調査や区内を通過するナンバープレート調査などの交通実態調査を実施するとともに、民間事業者等へのヒアリングを行い、事業への影響等に対する意識・意向を把握した。そのデータを活用して現況の交通状況を再現した上で、片側交互通行規制時および子規記念博物館先交差点の信号現示を変更した場合、地区の通過交通を排除した場合の3ケースで検討を行った。その検討結果は、県警・道路管理者・公共交通事業者との協議に活用するとともに、地元関係者等で構成される道後温泉活性化懇談会での説明に活用し交通影響の見える化につなげた。

また、道後温泉本館の保存修理工事開始前及び工事期間中における混雑緩和のための周知・案内を目的として、現地に設置する看板の制作・設置や、ホテル・旅館宿泊者、区内居住者に案内するためのチラシ等、広報

媒体を制作した。制作に際しては、地元関係者等の意見をできるだけ反映した。

今後も、工事期間が約7年と長期にわたることから地域経済への影響を出来るだけ及ぼさないように地元や行政とも連携・協力しながら支援していく。



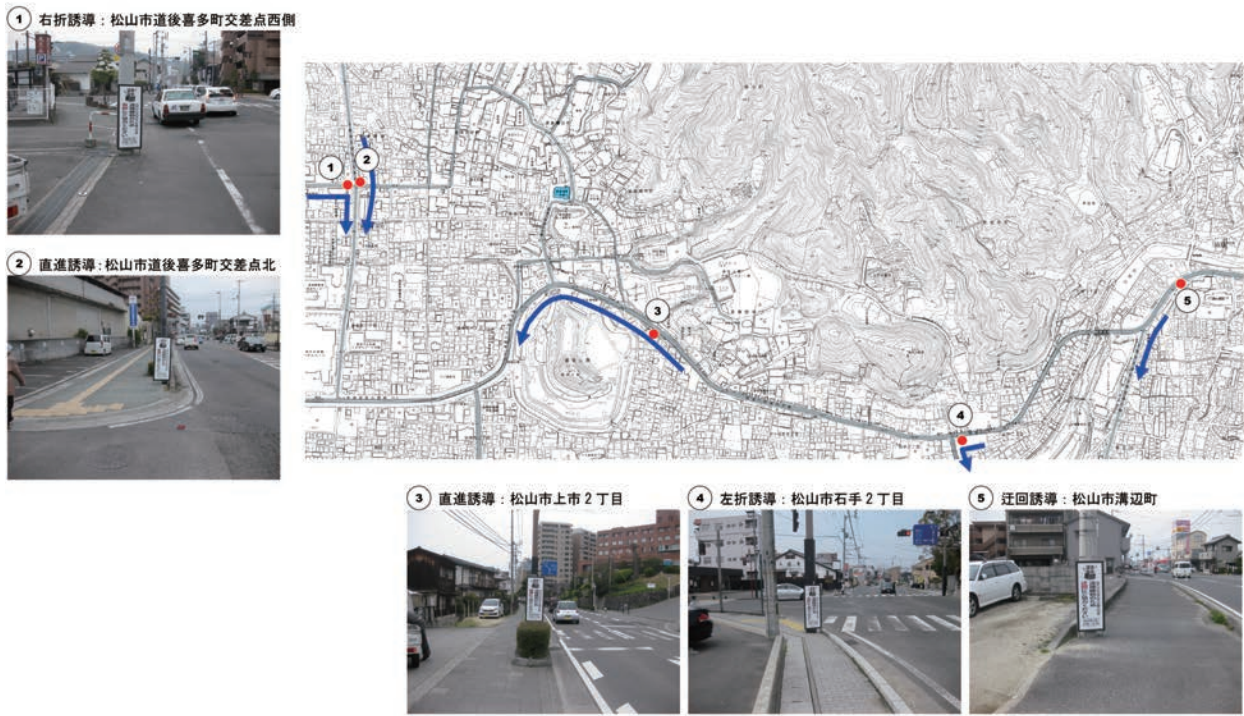


図 誘導看板設置位置



図 ミクロ交通量シミュレーション

## SD3

# 松山市駅前空間改変事業

今後整備が予定されている松山市駅前広場のあり方について、周辺に立地する民間事業者等とともに議論していくことを目的とし、松山市が補助し駅前商店街組合が行った駅前広場提言策定業務を支援するとともに、都市デザインや地域課題解決に向けた事例調査等を行う勉強会を企画実施した。

- (1) 松山市駅前商店街勉強会  
事業主体：松山市駅前商店街 / 協力：UDCM





## (1) 松山市駅前商店街勉強会

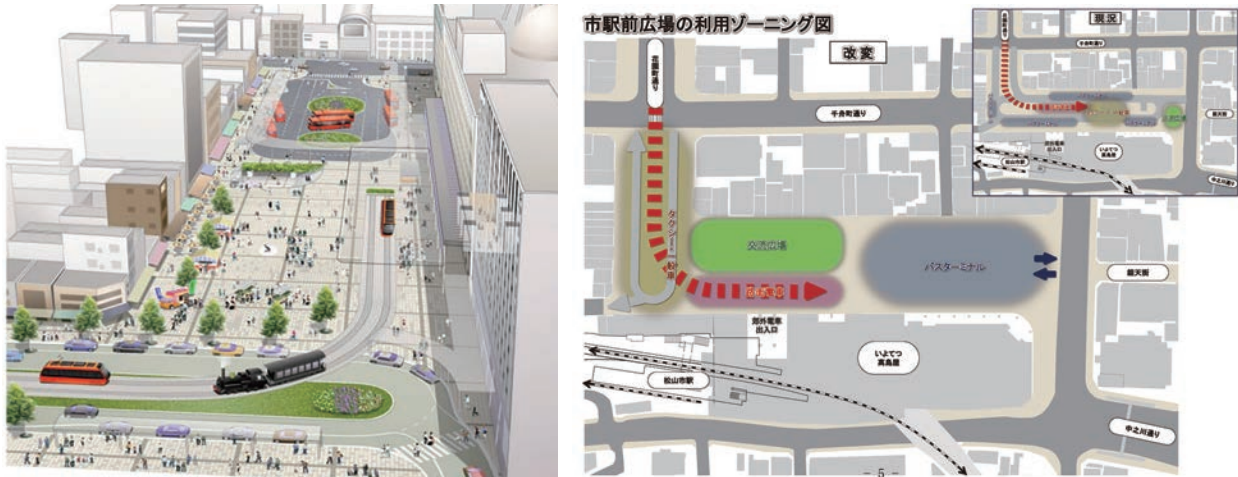


図 市駅前広場の利用ゾーニング図(出典：松山市 HP)

### 1) 勉強会の開催協力

「歩いて暮らせるまちづくり」を掲げる松山市は、花園町通りの整備に続いて松山市駅前広場の大規模な空間改変構想を公表した。公開されたゾーニング図とそれに基づくイメージパースには、広場全周を使っていたバスロータリーが東側半分にコンパクトにまとめられ、西側半分には歩行者のための広場が大きく取られ、その南側に路面電車の駅が置かれていた。

この駅前広場の南側には松山市駅(伊予鉄道)といよつ高島屋が立ち、東側は道路を挟んで銀天街商店街のアーケード入口がある。個店が並ぶのは主に北と西であり、西側は花園町通り商店街、北側は松山市駅前商店街(以下、市駅前商店街)に所属している。

この市駅前商店街では、将来のまちづくりの方向性を模索しており、2017年度には来街者へアンケートを行うなど調査検討を始めるとともに、同年度の商店街組合総会では老朽化したアーケードを撤去することを決めていた。続く2018年度には松山市の事業補助を申請し、まちづくりコンセプトを検討する事業を立ち上げ、プロポーザルを行い、業務委託先企業を選定した。

同時期、市駅前商店街からUDCMへと協力依頼があり、プロポーザルの審査員としてUDCMよりディレクターの尾崎が参画。さらにUDCMがプロポーザル後の事業

のフォローアップと、後述する勉強会の運営を行うこととなった。

上述の市補助事業では、来街者を対象としたワークショップを1回、地元関係者を対象としたワークショップを1回の計2回のワークショップを通じてコンセプトを立案することとなった。この限られたワークショップの機会を最大限有効に活用するために、事前に地域理解を深めておくためのリサーチを行うことを提案した。UDCMがリサーチを行い、市駅前商店街コアメンバーとリサーチ結果を定期的に共有しつつ、市駅前商店街としての今後の動き方などを議論する場として「松山市駅前商店街勉強会」が設立された。開催実績は次のページの表の通りである。

勉強会初回は、当年度中に議論しておきたいことや進め方について議論し、今後の市駅前の大きな空間更新に際して拠り所となるテーマや指針を決めることをゴールとして設定した。第2回では、プレストを通じてリサーチテーマを列挙、地元コアメンバーの中から、それぞれのテーマにおける情報集約の担当を決めた。その後、UDCMは担当コアメンバーと連絡を取りながらリサーチを進め、月1回の勉強会上で共有し議論することを繰り返した。リサーチテーマとその概要を以下に整理し、特に重要な歴史と駐輪についてこの後に成果をまとめる。

なお本勉強会では、次のページの表の概要欄に掲げる



写真 市駅前商店街勉強会開催風景

成果が得られたほか、市駅前のまちづくりのシンボルとしてお日切さん（善勝寺）を位置付けること、駅前広場完成後はその空間活用を地元中心で実施していくこと、そのための体制を組むこと、また駅前空間の魅力を高め維持するためのルールを設けることなどが方針として出された。これらは2019年度に内容精査をした上、地域内合意を図り、最終的には市への提言としてとりまとめていく方針である。

回	月日	内容
1	9/26	昨年度までの成果と今年度の進め方について
2	10/23	リサーチテーマと役割分担
3	11/14	リサーチ第1弾の報告・議論
4	12/12	リサーチ第2弾の報告・議論
5	1/23	リサーチ第3弾の報告・議論
6	2/27	今年度の振り返りと今後のスケジュール

表 松山市駅前商店街勉強会開催実績

リサーチテーマ	概要
市事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の駅前広場空間検討について、その整備意図やプロセスについて理解を深めた。</li> <li>市駅前商店街として検討すべきことや、市と協議すべき項目を抽出した。</li> </ul>
歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来に残したい大切なもの（＝歴史的な地域資源）を見つけるために市駅前の空間の歴史を整理した。</li> </ul>
アーケード	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーケードの改修事例を収集し勉強した上で、解体後のシナリオを絞り込んだ。</li> </ul>
たまり場	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なスケールのたまり場・たまり空間の事例を勉強し、市駅前商店街で現在できること・将来したいことを考えた。</li> </ul>
掃除	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動に関する事例について勉強した。</li> </ul>
駐輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐輪の現況を把握し、今後の対策について考えた。</li> </ul>

表 リサーチテーマとその概要



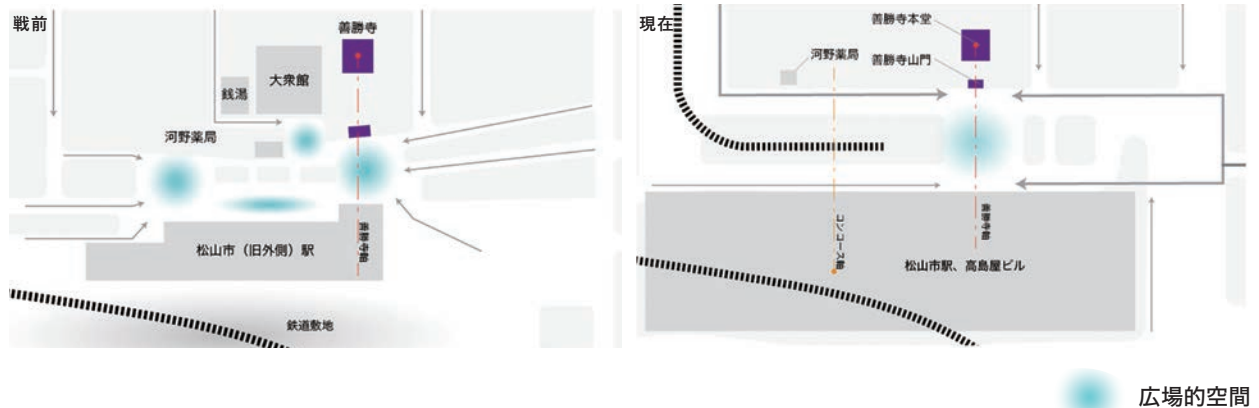


図 市駅前空間構造の変遷

## 2) 市駅前広場の歴史分析

市内最大の交通結節点である松山市駅周辺のまちの形成過程について明らかにするため、地図等の文献資料及び地域住民へのヒアリング調査を行った。

### ①文献調査からみえる空間の変遷

愛媛県立図書館及び松山市立中央図書館、愛媛大学図書館に所蔵されている地図資料及び書籍等を調査し、松山市駅周辺空間の変遷をまとめた。

松山市駅周辺において一番歴史が長いのは、1603年建立の善勝寺である。江戸時代末期の古地図をみると、この善勝寺周辺は、城下町エリアに比べ幅員の狭い道がほとんどであった。城下町を流れるグリッド状の水路は、この善勝寺の付近で曲線を描いて中の川に合流する形となっており、現在松山市駅が立地するエリアは、格子状の区画(城下町)の際に位置していたといえる。

1888(明治)年、松山-三津間で鉄道が敷設され、現在の松山市駅(当時:松山停車場)が開業した。『新版 わすれかけの街 松山戦前戦後(2002,池田洋三)』には、松山市駅北側に商店が集積し、いくつかの小さな広場的空間ができていた大正から昭和初期頃の様子が描かれている。しかしその後、松山大空襲等により焼け野原となった中心市街地は、戦災復興事業により区画整理と街路整備が行われ、松山市駅周辺に関しても戦前の頃の区画は再整理された。現在の松山市駅周辺の都市空間の構成(特に駅前広場の区画や広幅員街路網の骨格)はこの戦災復興期に形成されたといえる。松山市

駅前の交通広場は、昭和後期に再度整備されて現在に至る。

### ②善勝寺を中心とした戦前の小さな広場空間

駅前商店街のことを古くから知る2名に戦前のお話を伺った。

当時、善勝寺の境内は今よりももっと広く、出入口も複数あったという。山門の東側には池があり、境内は子供にとっての遊び場であったようである。善勝寺の西隣には、「大衆館」という娯楽施設とその駐輪場が立地し、夜になると大衆館と善勝寺の前にある小さな広場に屋台が出ていたという話もあった。現在の交通広場のような車社会が到来する以前には、善勝寺を中心に、人の集まる場所が形成されていたようである。

### ③日切地藏祭りと駅前広場

駅の立地を背景に商業が集積し人の集まる場所となった松山市駅前の空間は、戦後、車のための交通広場に変化した。しかし、善勝寺の大縁日にあわせて毎年8月に開催される「日切地藏まつり」の際には、善勝寺前に設置された30台分のタクシープールがお祭り広場へと変化する。明治期に駅が立地したことにより形成されたと考えられる小さな広場的空間は前述の戦災復興事業により一掃されたが、その一部は非日常的に、お祭り広場として継承されてきたといえる。松山市駅前広場は、今後再整備が予定されているが、こうした地域の都市形成の文脈をふまえた上で、空間整備およびその後の利活用のあり方の検討が行われるべきであろう。

### 3) 松山市駅前商店街の駐輪状況調査

市内最大の交通結節点である松山市駅前周辺では、徒歩・自転車と公共交通（路面電車、郊外電車、バス等）への乗り換えポイントである。また商店街や近隣のオフィスを目的地として来街する人々も少なくない。それゆえ非常に多くの違法駐輪が常態化していた（写真参照）。

一方で、同じく違法駐輪が問題となっていた花園町通りでは、道路整備を機に歩道に駐輪場が設けられ、また近隣の市役所第四別館に大容量の駐輪場が設置されたことで、違法駐輪がほとんど見られない状況へと改善されていた。

2023年の完成を目標として進められる市駅前広場の整備に合わせて適切な場所に駐輪場が確保されるべきであることは論を待たないが、勉強会では駅前広場の整備前に出来る出来ないかを模索することとなった。そのためにはまず実態を把握することが必要である。UDCMでは平日一日の時間帯ごとの駐輪台数を把握する調査を実施した。

#### ①駐輪状況調査の方法

対象地は、市駅前商店街の立地する市駅前広場北側のブロックに設定した（次ページ図参照）。実施日は11月27日火曜日の7:00から23:30とし、対象範囲を30分ごとに徒歩で回り、目視で駐輪台数を計測し、写真とともに記録した（次ページ図参照）。

#### ②駐輪状況調査の結果

駐車台数の最大は、18:30まではD、以降22:00まではA、以降23:30まではBであり、多くの時間で圧倒的にDにおける駐輪が多かった。次いで多かったのはA、B、Cであり、EからIは比較的少ないことが確認された。

駐輪が多く認められたA-Dについて個別に傾向を確認すると、次のような特徴が見られる。

A：朝から13時頃まで増加。17時に再度増加し18時にピーク。19時から急減少。

B：午前中にゆっくり増加。15時から急に増加し19時にピーク。その後急減少。

C：午前中にゆっくり増加。18時から19時にかけてやや増加しその後減少。

D：11時まで急激に増加。18時にピークを迎えその後急減少。

以上より、A・Bは短時間駐輪、C・Dは長時間駐輪

が多いと思われる。前者は19:00あたりをピークとすることからこの時間帯に市駅前周辺に用事がある人による駐輪、後者は周辺に就業している人または市駅前から公共交通に乗り換えて通勤等をする人の駐輪であると推察される。なお、時間帯ごとの最大値は18:00と18:30の410台であり、最小値は7:00の94台だった。

#### ③今後に向けて

調査結果を踏まえ、平日で最大400台程度の駐輪をまかなう必要が確認されたが、現時点で出来ることは極めて限られている。アイデアとしては、駐輪マナーの指導や張り紙等の意見が出されたものの、市駅前商店街だけで行うには労力面に十分配慮した方法でないとし持続性に欠ける。

一方で、将来的に駅前広場の整備に伴いこれらの駐輪が解消された場合、様々な空間活用が可能になる。もうひとつのリサーチテーマである「たまり場」で学んだサンフランシスコ市のParkletやニューヨーク市のPlaza Programなどのような道路空間活用（市駅前では車道や駐車ロットの活用ではないにしろ）により、市駅前できろいどり、バス待ちをしている人々が座って待つことができる場所をつくる事が出来るかもしれない。

また、駅前広場の整備に先んじてこの空間活用の試行をすることを通じて、空間活用のノウハウを培い、また市の設計する広場へ提案ができるのではないかと議論がなされた。これを機に、次年度よりエリアマネジメントの考え方や事例について研究を深めることとなった。



写真 駐輪現状（点字ブロックを塞ぐ駐輪も見られる）

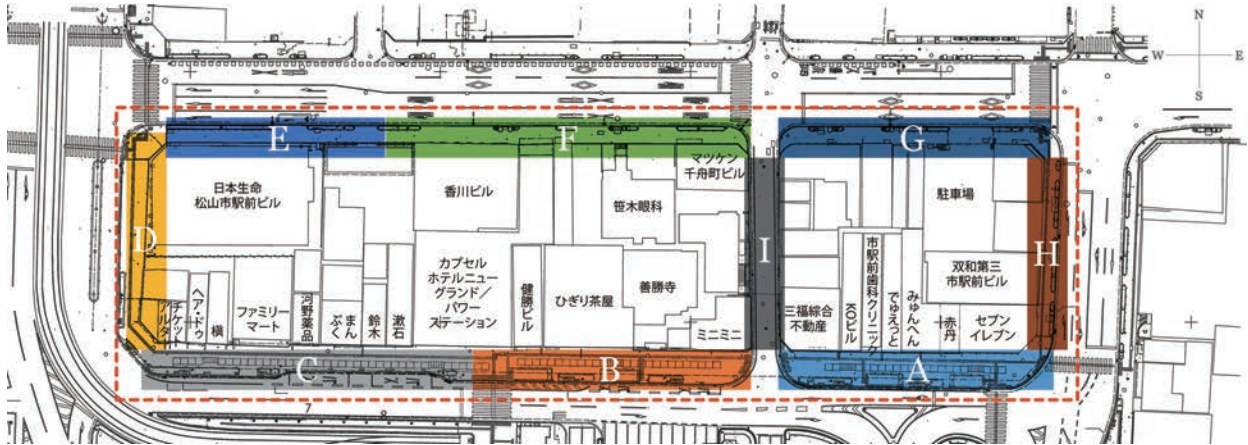


図 市駅前広場北ブロックにおける駐輪状況調査のゾーニング

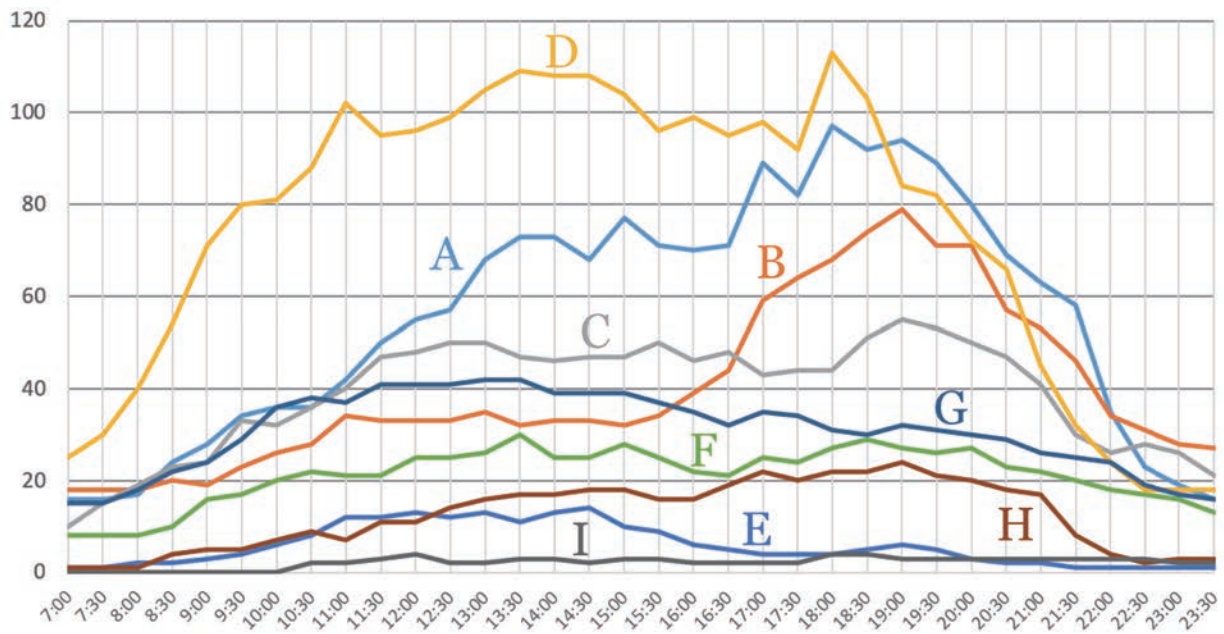


図 市駅前広場北ブロックにおける駐輪状況調査結果  
(縦軸：駐輪台数、横軸：調査時刻)

調査日時	2018年11月27日(火)7:00-23:30
調査方法	30分ごとに目視計測し、写真記録を採取
調査範囲	市駅前広場北側ブロックの歩道(一部車道含む)

表 調査概要



写真 Parklet (SFC) 出典：<http://pavementtoparks.org/parklets/>



## SD4

# JR 松山駅周辺整備事業

JR 松山駅およびその周辺エリアでは、連続立体交差事業、土地区画整理事業、街路整備事業が進んでいる。今年度は、昨年から取り組まれている土地利用勉強会と、2019年1月より専門家と駅前広場に関係する事業者によって構成された「松山駅まち会議」の開催を支援した。

- (1) JR 松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会  
事業主体：松山市役所（JR 松山駅周辺整備課）／ 協力：UDCM
- (2) JR 松山駅まち会議  
事業主体：松山市役所（JR 松山駅周辺整備課）／ 委員参画・支援：UDCM



## (1) 松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会



図 将来イメージ遠景パース

### 1) 勉強会の概要とねらい

昨年度、松山市が設置した駅周辺の市街地のあり方を考えるための勉強会「松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会」が計5回開催され、地権者や建築士会、大学生といったメンバーにより、駅周辺の将来像に向けた方針とコンセプトである「松山駅周辺ビジョン2027」がまとめられた。

本勉強会は、昨年度に引き続き、地権者、建築士会、大学生、UDSMスクール生等で構成され、全5回のワークショップに加え、専門家を招いたセミナーを2回、さらに今年度の成果を広く周知する総括フォーラムが開催された。主催は松山市であり、UDCMとしてはディレクターの尾崎がプログラムの検討支援および現場の総合コーディネートを担当した。

本勉強会のねらいは二点ある。一点目は「アクションづくり」である。昨年度とりまとめた「松山駅周辺ビジョン2027」において「イベントや交流がさかんでいつも人が多い文化のまち松山」などの言葉が現れているように、勉強会メンバーの間では、将来の駅前広場に人々の活動が展開されるイメージが存在した。これを小さくともよいので自分ごととして今のうちから実現させてみようという

のが一点目のねらいである。二点目のねらいは、「景観イメージの具体化」である。同様に昨年度の成果を踏まえて、駅周辺の将来像を具体的にパースとして描くことがねらいである。

ワークショップでは、チームにわかれてアクションづくりを検討する時間と、全員で景観イメージを表現したパースに意見を出し合う時間を設け、それぞれの成果へとつなげていった。

### 2) 景観イメージの具体化

駅周辺の景観イメージを具体化するにあたり、全体的なイメージとアイレベルでのイメージ双方をカバーするために、遠景・中景・近景の3枚のパースを作成した。遠景では近隣建築物の高さやファサード、屋外広告物のイメージを、中景・近景では建築物低層部や屋外広告物・工作物のしつらえを表現している。

### 3) 景観形成ガイドラインのとりまとめ

さらに、ワークショップでの議論を踏まえ、松山市がとりまとめる「景観形成ガイドライン」に対して助言を行なった。本ガイドラインは現在松山市役所およびUDCM等





図 将来イメージ中景パース



図 将来イメージ近景パース

にて配布されている。

#### 4) アクションづくり

参加者の興味関心に応じてチームにわかれ、計4つのアクションを行なった。アクションづくりの成果を右表に整理する。駅に関する事例研究がひとつ、駅前広場の活動がひとつ、駅周辺の街を紹介するメディアがふたつという結果となった。なお、このうちひとつは、別途UDCMで行なっているアーバンデザインスクールのチームでJR松山駅周辺での活動を検討していたチームがあったため、本勉強会へ合流したという経緯がある。

駅前広場でのイベントを行なったチームは、継続意欲がきわめて高く、今後の展開が期待される。また、グルメガイドと食べまっぷは現在UDCM等にて配布している。

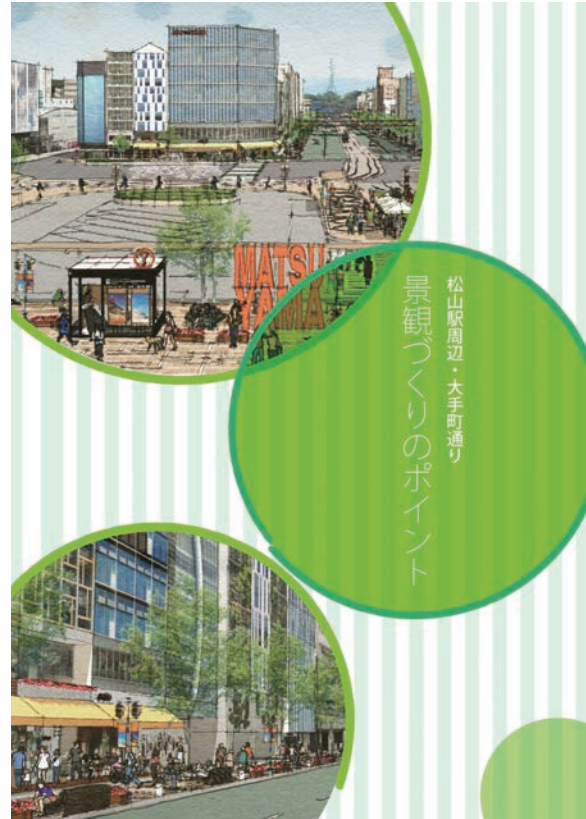


図 景観形成ガイドライン表紙

チーム	内容
駅研究新聞	国内外の駅についてリサーチを行い、松山駅を考える際のポイントを提案する新聞。駅舎建築、駅前広場、待合室、飲食店、駐車場・駐輪場についてまとめた。
グルメガイド	「味わい深い JR 松山駅界隈編」というサブタイトルの通り、JR松山駅界隈の飲食店をくまなく調査し、体験レポートとともに魅力的な手書きイラストのマップを作成。
よるまちプロジェクト	人が「寄る」と「夜」をかけたイベントを12/14の18:00-20:00に開催。駅前広場での高校生バンドによるライブやライトアップ等を実施し、約100人の来場者を集めた。
食べまっぷ	アーバンデザインスクール生による活動。駅での待ち時間に歩いていける範囲のおしゃれなカフェ等の飲食店をマッピングし、店主へのインタビュー等とともにまとめた冊子を制作。

表 アクションづくりの成果

## (2) 松山駅まち会議



写真 松山駅まち会議の様子

2019年1月より立ち上げられた「松山駅まち会議」に委員として、駅前広場の基本計画の協議に参画した。また、駅前広場の基本設計に向けた設計条件の整理のため、JR松山駅周辺地区のエリアビジョン、新幹線の敷設可能性及びその際に必要な空間条件・パターンの検討、周辺土地利用の検討、広場に求められる都市機能の整理等について松山市及び業務受託者と協議を始め、基本計画の素案づくりを支援した。



## SD5

# 賑わい再生社会実験拠点整備

2014年11月に湊町3丁目に開設された松山アーバンデザインセンターが、  
2019年1月に花園町通りへ移転することとなった。

拠点施設の設計監理を株式会社設計領域に、家具デザインを株式会社ウィングに依頼し、  
花園町通りに面するビル1階部分をまちづくり拠点としてリノベーションを行なった。

(1) まちなか交流拠点「もぶるラウンジ」の整備

事業主体：松山市役所 / 設計・監理：株式会社設計領域  
家具デザイン：ウィングデザイン / 家具制作：伊予匠ノ会  
支援：UDCM





## (1) まちなか交流拠点「もぶるラウンジ」の整備

### 1) 経緯

次の社会実験を見越し、花園町通りに面した雑居ビルの1階が移転先として選ばれた。設計者は、花園町通りの計画設計を手掛けた株式会社設計領域が選定され、松山市、UDCM スタッフとともにプランニングを行った。

### 2) 拠点整備のコンセプト

本拠点のコンセプトは以下の3つである。

#### 1: 路地を引き込む

- ・元々駐車場だった特徴的な旗竿形状の対象地において、花園町通りとの関係や間口の狭さによる入りにくさの解消を考慮し、路地状の共用スペースを挿入した。共用スペースはギャラリーとして活用し、建物内外に配置された小さなオープンスペースを縫い取りながら花園町通りから敷地奥へと抜ける新しいパブリック空間の創出を意図している。
- ・オフィス空間を沿道施設と見立て、共用スペースと並行するリニアな配置とすることで、管理と執務の両立が可能になり、セキュリティのゾーニングも明快になった。

#### 2: 「まちの種」を備えた間仕切家具

- ・ギャラリーとオフィスを分節する収納家具(キムテボン氏設計)は展示機能やベンチ、本棚などを備え、人々が道やまちと関わるきっかけを提供する。

#### 3: 通りと呼応する施設の顔

- ・建物の共用部にまではみ出すかたちでヒノキ製の大きなベンチを設置し、施設の存在をにじみ出させると共に、入口付近に通りと連続する半屋外の溜まり空間を創出。
- ・地元職人による鉄を用いたロゴサインを設置。花園町通りに設置された植栽柵と同じコールテン鋼を使用している。
- ・みんなの広場に設置されていた土管を花園町通りに移設予定。サインやアートイベントスペースとしての活用を検討中。

### 【内装工事他】

(花園町通り賑わい交流拠点施設整備工事)

発注者	: 松山市
設計期間	: 2018年6月~7月
施工期間	: 2018年8月~12月
基本設計・監理支援	: 国立大学法人 愛媛大学 株式会社設計領域   新堀大祐、吉谷崇、 内海友博 合同会社チップス(照明デザイン)   永島和弘
実施設計・監理	: 松山市   公共建築課
施工	: 株式会社神野組   武田卓雄

### 【間仕切家具】

発注者	: 松山市
設計	: 国立大学法人 愛媛大学 株式会社ウイング   キムテボン、小林誠
製作	: アカマツ株式会社
協力	: 伊予匠ノ会((有)阿部木工、(有)西永工業)

### 【エントランスサイン】

発注者	: 松山アーバンデザインセンター
設計	: (株)設計領域
製作	: (有)西永工業

### 【CityProbe (UDCM 前庭ベンチ)】

提供	: 日立東大ラボ
本体設計	: (株)設計領域
本体製作	: (株)神野組

### 【CityProbe (施設内ディスプレイ+システム)】

提供	: 日立東大ラボ
----	----------

(拠点デザイン展示パネル(制作:株式会社設計領域)より引用)



写真 ファサード



写真 ライブラリー



写真 ギャラリー的な細長い空間



写真 打ち合わせスペース



写真 掲示板とオフィス入り口



写真 中庭と屋台



# プログラムデザイン

PD 1. 松山市中心市街地賑わい再生社会実験	p32-
PD 2. アーバンデザインスクール	p41-
PD 3. 移動する建築	p49-
PD 4. メディア制作	p54-
PD 5. 松山動線 2050 スタディツアー	p60-



## PD1

# 松山市中心市街地賑わい再生社会実験

松山市の低未利用地を活用しまちなかの賑わい再生を目的とする社会実験。

UDCM は、松山市が湊町 3 丁目に整備した「みんなのひろば」「もぶるテラス」の運営業務を

2016 年から受託し、これまで様々なプログラムの企画・実施を行なってきた。

今年度は、年度途中で花園町通りに新しく整備された「もぶるラウンジ」に活動拠点を移し、

新たなフィールドでのプログラム企画・実施にも取り組んだ。

(1) 「みんなのひろば」「もぶるテラス」の運営 ※ 2018.11 に「みんなのひろば」、2019.1 に「もぶるテラス」が閉鎖  
事業主体：松山市役所 / 受託事業者：UDCM

(2) 「もぶるラウンジ」の運営 ※ 2019.1 より運営開始  
事業主体：松山市役所 / 受託事業者：UDCM



撮影：宮畑周平

## (1) みんなのひろば、もぶるテラス

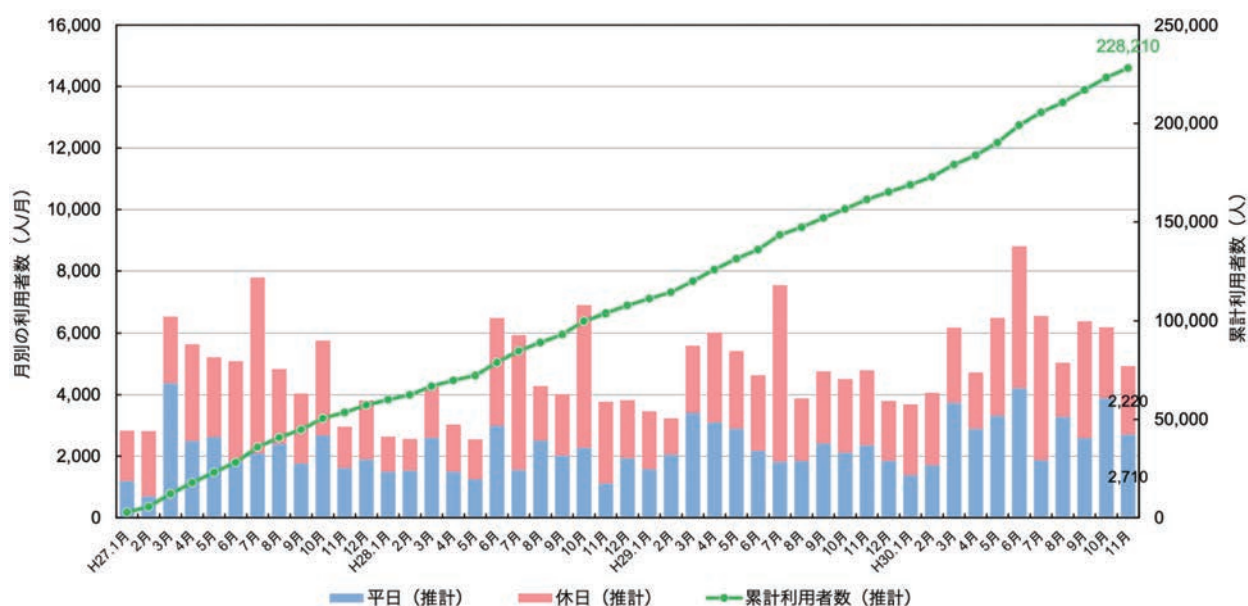


図 みんなのひろばの利用者数推移 (2015.1～2018.11)

### 1) 利用者推移

2014年11月に松山市中心市街地賑わい再生社会実験の活動拠点として湊町三丁目に整備された「みんなのひろば」と多目的スペース「もぶるテラス」は開設から4年が経ち、延べ利用者数は31万人を超えた。

実験開始からテラスが閉鎖した2018年11月までの来場者は、みんなのひろばでは、延べ約228,000人(推計)(前年3月末:延べ約180,000人)、もぶるテラスでは、延べ約90,000人(前年3月末:延べ約75,000人)に達するなど、閉鎖までの間も多くの方に利用してもらえる結果となった。

ひろばは、これまでどおり平日は各時間帯で、休日は1日を通して幅広い世代で利用されていた。平日の午前中は、買い物や散歩途中で休憩するお年寄りや、近くの保育所等の園児が遊ぶ風景が度々見られ、午後からはスーツを着たサラリーマン風の人々や、学校帰りの中・高校生などが近くのお店でテイクアウトした食べ物を持ち寄って食べたり、ダンスの練習をしたり、様々な利用の様子が見られた。休日は、親子連れからお年寄りまで幅広い世代に利用されていた。また、テラスも中・高校生によるひと時の語り、OLの昼食、買い物途中の親子連れの休憩、備え付けのライブラリーを手にする人など、多様な人・目的での利用がなされていた。なじみの顔も

いるなど、ひろば・テラスがまちなかでの居場所の一つとして定着していたことが伺える。

### 2) 本年度のコンセプト(湊町三丁目)

昨年度に引き続き、ひろばやテラスでのプログラム実施を通じた賑わい創出を目的に、テーマに特化した自主事業を9企画、全17回(展示を含む)実施した。また、これまでの商店街回遊イベントへの参画に加え、周辺商店街等との連携事業に積極的に取り組み、3企画を実施した。

### 3) 自主事業(湊町三丁目)

過年度実施して人気のあった「星空散歩」(大学の天文部に所属する学生スタッフによる星空講座)、「もぶる鉄道部」(学生スタッフによる鉄道模型の走行会や展示)、「夏だ!海だ!あ、噴水だ!」(ひろばの噴水に水を溜めて遊ぶ納涼イベント)のほか、「夏の自由研究お助け隊」などの季節に合わせた企画や「もぶる句会」などの新たな企画も開催した。

#### 【星空散歩】

大学の天文研に所属する学生スタッフによる星空講座で、星について学び、実際にまちなかで望遠鏡を立てて、



星を観るなど、座学と実践を組み合わせたプログラムである。昨年度から始まり、昨年度は全4回も開催した人気企画である。

本年度1回目、通算5回目は、7月31日の火星大接近の日にあわせて開催。初めての平日開催であったが、開催5日前には定員である先着20組に達し、受付を終了。平日開催でも、変わらず人気企画であることがわかった。当日はテラスでの夏の星座案内をクイズ形式でおこない、休憩を挟んだ後、南銀天街、柳井町商店街を散歩しながら石手川緑地まで移動して天文研協力の下、観望会を実施。望遠鏡(2台)をのぞいたり、用意したマットに寝転んだり、思い思いの方法で観望を楽しんだ。また、当日の様子が天文雑誌『月刊天文ガイド2018年10月号』の「天文部 NOW(67～68頁)」のコーナーで紹介された。

本年度2回目、通算6回目は道後温泉本館前の坊っちゃん広場で開催。テラスが閉鎖し、新拠点はまだオープンしていない状態である期間中も活動したいと学生スタッフが申し出てきたため、秋の満月の日に合わせて実施。活動拠点の運営に関わる学生が自発的にまちに滲み出しつつあり、本取り組みを通しての将来のまちづくりの担い手育成の効果が垣間見られた。



写真 星空散歩

### 【もぶる鉄道部】

鉄道好きの学生スタッフが立ち上げた鉄道模型の走行会と企画展示を組み合わせたプログラムである。昨年度から始まり、昨年度は全3回開催。テラスで複数回開催されたプログラムの中では、通算集客人数(全5回で計816名の来場)が最も多い企画である。また、プロジェクト単独のSNSページを立ち上げるなど、学生が主体と

なって積極的に情報発信をおこなっている企画でもある。

本年度1回目、通算4回目は、5月4日に「四国内の現行車種全集合」をテーマに実施。展示企画では、2000系TSE車両の引退を記念した特別展示を開催した。初の試みとして車両模型の持ち込み走行を実施。来場者は全5回中最も多く、オープン前から並んでいる来場者の姿もあった。

本年度2回目、通算5回目は、8月12日に「瀬戸大橋開通30周年」をテーマに実施。走行線路上に瀬戸大橋を模した鉄橋を配置する等、橋に関する展示にも注力した。また、運転体験コーナー参加者を対象にくじ引きでプレゼント(指人形)配布を実施。運転体験コーナーは親子連れに人気で、子ども達が運転し、親御さんがその様子を撮影するといった光景が何度も見られた。

来場者の多くは、SNSやチラシを見て来場してくれた鉄道ファンや商店街のイベントや松山まつりへ向かっていた子ども連れであった。展示物も熱心に見ている方や質問される方が多く、鉄道をきっかけに交流がうまれた。

### 【もぶる句会】

俳句甲子園に出場経験のある学生スタッフによる俳句講座で、俳句作りを通して、参加者同士の交流を目指しているプログラムである。本年度からスタートし、6月から2ヶ月間テラスに当句箱を設置。6月17日にはワークショップ形式での句会を開催した。

ワークショップでは、参加者それぞれの持つ俳句へのイメージを話し合い、俳句に対する親しみ具合を共有した。その後、作り方についてのレクチャーを実施。参加者の多くが初心者だったため、個別に解説も実施し、参加者全員が俳句を作り上げることができた。



写真 もぶる句会

### 【夏の自由研究お助け隊】

昨夏、子供との交流、親子でまちなかに出かけるきっかけづくりを目的としておこなった夏休みの小学生対象のプログラムを、今年は「自由研究」に特化して実施。身近なもので科学実験をおこなう研究編と、作業を通じて花の仕組みや音楽のコードを学ぶ工作編を2日にわけて開催。各回の講師は学生スタッフがおこなった。

当日は子供1人1人と丁寧に会話を交わしながら実施することができた。友人の子供を預かってくる等、大人1名が複数人の子どもを引き連れて参加するパターンが目立った。

### 【夏だ!海だ!あ、噴水だ!】

今年で3回目の開催となる毎年好評のひろばの噴水を使った納涼イベント。暑い時期にひろばで涼をとる憩いを提供することを目指している。また本プログラムは、広報以外の運営を学生スタッフがおこなっており、学生の自主性が強いプログラムである。

昨年までと同様、噴水に水を溜め、カラフルなボールや浮き輪を浮かばせ、水遊びができる空間を演出。噴水の南側にはシートを敷き、子供が着替えるスペースや貸出しタオルを用意した。

平日開催は参加者が少ないことが過去の開催状況により把握できていたので、本年度は土曜夜市の日にあわせて3回開催。広報はHP、SNS、ひろばとテラス便りのみであったが、多くの子供たちが遊びに来てくれた。過去にも参加したことがあると話しかけてくれた親御さんも数名おり、みんなのひろばの夏恒例企画として定着している様子が伺えた。



写真 夏だ!海だ!あ、噴水だ!

### 【もぶる屋台】

学生スタッフが小商いを学ぶため、2016年に始めた土曜夜市時のひろばでの出店企画。これまでは、過去にテラスで実施したDIYワークショップで製作したモバイル屋台を用いていたが、今年度は3月にお披露目された移動する建築「まちを旅する4つの屋台」のうち1つの屋台を使用し、「もぶる屋台」として出店をおこなった。

事前準備や当日の設営は、過去に出店を経験している学生スタッフが中心となって実施。最初は見ていただけだった下級生たちが、次第に自ら呼び込み用の看板を作ったり、アーケードの方まで呼び込みに行ったり、自発的に行動を起こす姿が見られた。初回の出店後反省会では、屋台の設置場所の再検討や、呼び込みの際の注意点などの意見交換が学生間でおこなわれ、卒業により毎年少しずつ入れ替わる学生スタッフ間で、プログラム運営のノウハウが引き継がれている。



写真 もぶる屋台

### 4) 連携事業(湊町3丁目)

てくるん主催の「まちなかてくてくハロウィン」への参画に加え、テラスで定期的に活動されているNPO Communication Network主催による「えいごカフェハロウィンパーティー」の開催支援、また近隣商店街店舗等との共催による「まつやま文具マルシェ」を実施した。また、テラスの最終利用日にあわせて開催した「ありがとう!もぶるテラスおわかれ会」の中で、商店街店舗等にご協力いただき、商店街を子どもたちが移動するプログラムを実施した。

### 【まちなかてくてくハロウィン】

小学生以下を対象とした、毎年恒例のまちなか回遊ハ



ロウィンイベント。一昨年に続き2回目の参画。本年度は、商店街の3会場でスタンプラリーの台紙配布やかぼちゃのスティックづくり、お菓子を入れるバッグづくり等を実施。テラスとひろばでは、学生スタッフ発案による「こもりアイマスクづくり」をおこなった。

会期中はひろばに遊びに来ていたハロウィンイベントが目的でない子どもたちもたくさんアイマスクづくりに参加。プログラムの説明等を通して、テラスとひろば利用者とスタッフ間の交流がうまれた。



写真 まちかてくてくハロウィン

#### 【えいごカフェーハロウィンパーティー】

テラスで定期的に活動されているNPO Communication Network 主催による、回遊ハロウィンイベント。参加者である子どもたちがハロウィンにあわせた仮装姿でテラス周辺の協力店舗を練り歩き、お菓子を集めてまわるプログラムである。

主催者が用意したお菓子を、事前に協力店舗に届けておき、参加者が訪問した際に渡してもらうため、その協力店舗（計10店舗）探しについて、主催者同行の上でプログラム説明に回る等、開催実現のための支援をおこなった。



写真 えいごカフェーハロウィンパーティー

#### 【まつやま文具マルシェ】

文具をつかったワークショップなどを通して子どもたちに文具の魅力を伝え、商店街を回遊して楽しめるイベントを、近隣商店街店舗等と共同で開催。UDCMは主に広報と、企画・運営についてのアドバイス、ワークショップ事前申込の対応、当日のひろば・テラスでのプログラム運営フォロー、屋台等の備品貸出の役割を担った。

初日はテラス内で真っ白な段ボールハウスに絵を描くプログラムを実施。スペースの制約もあり、初日は事前申込制で実施したが、翌日はひろばに設置して誰でも自由に参加できる形をとり、好評であった。2日目のテラスでは、クレーパス作り等を体験できる事前申込制のプログラムと、飛び入りで参加できるプログラムを並行して実施。参加者アンケートからも、高い満足度が把握でき、ひろばのお絵描きハウス等、申込なく気軽に参加できる企画を用意したことや、別会場でもそれぞれ別の文具企画を開催し、待ち時間を飽きさせないように工夫したことが高い満足度につながったのではないかと考えられる。



写真 まつやま文具マルシェ

#### 5) 取り組みの成果（湊町三丁目）

社会実験の効果検証や課題把握を目的として、ひろばとテラスについての継続的な調査やアンケート等を実施



している。

ひろば・テラス前面の通行量は、過年度と比較してみると増加傾向にある。通行量の内訳では、自転車や自動車は前年同期に比べ減少しているのに対し、歩行者は前年同期に比べ47人増え(5.3%増)徐々に増加してきている。

利用者アンケートからは、ひろばはコンスタントユーザー(月に1回程度以上ひろばを利用する人)、バリアブルユーザー(2,3ヶ月に1回程度以下ひろばを利用する人)どちらからもまちなかに必要と感じられている。特にコンスタントユーザーは、「湊町3丁目付近に必要である」という回答が6割と高いことがわかった。

周辺住民アンケートでも、みんなのひろばの継続について約7割の人が継続の必要性を感じていることが把握された。年代別に見ると、若年層(29歳以下、30歳代、40歳代)の5割強~7割程度が「ぜひ継続してほしい」と回答。特に30歳代では「どちらかといえば継続してほしい」を含めると9割を超える人が継続の必要性を感じている。子育て世代に継続を希望する声が高い結果となった。

## (2) もぶるラウンジ



写真 こたつ de みかん

### 1) 新拠点への移転と新たな社会実験の取り組み

2016年度よりUDCMが委託を受けており、本年度も各種事業に取り組んでいた矢先、社会実験の活動拠点移転とそれに伴うひろばとテラスの閉鎖が松山市より発表された。移転理由は2つ。1つ目は、ひろばとテラス周辺の人通りが整備前と比べ3倍以上増加したほか、周辺の商店街には休憩や賑わいスペースが整備されるなど湊町三丁目での社会実験は一定の成果が認められたこと。2つ目は、移転先である花園町は、2017年9月に通りのリニューアルがおこなわれ、また近接している松山市駅前にはバスターミナルや広場などの空間改変の計画が進んでおり、ハード整備後の空間活用に注目が集まっている地区であること。この2つの理由から、花園町を活動の拠点として中心市街地に賑わいを生み出す新たな社会実験を開始するために移転することとなったのである。

移転後の活動拠点「もぶるラウンジ」では、引き続きまちづくり活動の拠点として、情報発信や賑わいづくりのプログラム企画を実施。また、新しい拠点整備の際に意識したギャラリーとしての空間の使い方や、花園町通り等のまちなかの公共空間の利活用を目的とした企画を3企画、全4回(展示を含む)を実施した。

### 【まちづくり拠点とリノベーションデザイン】

新拠点「もぶるラウンジ」のオープニング企画として、ラウンジ内をギャラリーとして活用した展示企画である。当施設の基本設計・監理支援を行なった(株)設計領域と、(株)ウイングにご協力いただき、今回のリノベーションデザインのポイントをまとめたパネル等の展示をおこなった。

オープニング初日には、携わっていただいた設計士の方々に現場で解説していただく内覧会を開催。参加者の多くは、整備前後の写真を見比べて驚いていたり、検討時の模型を熱心に撮影されたり、新しい拠点をきっかけに、リノベーションに興味を持つ層の拡大を図った。



写真 まちづくり拠点とリノベーションデザイン

### 【こたつ de みかん】

花園町通り等のまちなかの公共空間の利活用プログラ

ムとして「(路上の) こたつでみかんを食べよう」をテーマに、UDCM 特製ロングこたつ(2基)を路上に設置し、通りのイベントに賑わいを添える企画である。1~3月のお城下マルシェ開催日に合わせて、新拠点前通りで実施。

1月は天候の都合もあり、一部、屋根のある新拠点の受付前で実施したが、絵本の読み聞かせや、DJ セレクトの音楽を参加者に楽しんで頂いた。2月と3月のマルシェ時は天候にも恵まれ、特に昼前から終了間際までは常に満席状態であった。

学生スタッフと一緒に手づくりした特製ロングこたつは、道後で開催されていた道後オンセナートの「地元プロジェクトファイナルイベント 街の中の雲」に貸出しをおこなった。飛鳥乃温泉の中庭に浮かぶ雲の下にこたつが出現。通りだけでなく、広場でも活用され、空間に賑わいを添えた事例となった。



写真 こたつ de みかん

### 【柑橘大作戦】

ラウンジ内で2月のマルシェテーマである「柑橘」に因んだ複数のプログラムをマルシェ開催に合わせて実施。各プログラムは、以前のテラスとひろばで活動されていた方々で、拠点移転後も活動の場として継続利用の連絡をくださった方々にご協力いただいた。

柑橘でスタンプづくりや、柑橘などの食べ物が登場する絵本読み聞かせ、みかんの剥き方を工夫して皮で動物の形を作るピーリングアート講座がおこなわれ、ラウンジ内が人で溢れかえるほどの賑わいであった。通りと連携したプログラム開催により、新しい拠点の存在やUDCMの周知にもつながった。



写真 柑橘大作戦

## 2) 今後の課題

様々な効果が認められつつある一方で、新旧の拠点それぞれで課題もある。

### 【湊町三丁目での社会実験の総括】

約4年間の取り組みを振り返った効果検証が必要である。継続的に調査をおこなっている交通量等から定量的な変化を把握してきたが、加えてテラスとひろばの利用者の増減に影響を与えていると思われる要素に着目した分析や、これまで開催してきたテラスとひろばでの実施プログラムの分析を通し、テラスとひろばの設置されたことによる効果を検証することが必要である。

### 【新拠点を中心とした新たな賑わいづくりと評価指標】

人通りや商業活動の多い商店街に程近い立地であった旧拠点では、テラスやひろばでのプログラム開催による人出やプログラム実施を通して生まれる交流行動を「賑わい」と考え、多くの自主事業等を実施した。また拠点運営においても、他団体により数多く利用いただけるように様々な利用を受け入れる運営をおこなった。移転先である花園町通りは「賑わいと交流を育む広場を備えた道路」としてリニューアル整備がおこなわれた空間である。また



「滞留する憩いの居場所づくりによる地域活性化」や「誇れる地域の宝を生かした魅力的な空間形成」を目指して整備されており、沿道のまちの様子からも以前と全く同じ「賑わい」を目指すのではなく、新しい社会実験をおこなうにあたり「賑わい」の再定義と、その継続的な評価指標の検討が必要であると考えている。

### 3) 新旧拠点周辺との連携

社会実験の取り組みは、新拠点や花園町通りを中心にこなうものの、新拠点に限定されるものではなく、松山のまちなか（中心市街地）が活動フィールドである。よって、旧拠点周辺での連携事業等の継続の可能性も探るべきであると考えている。いずれも、周辺店舗や活動団体等の連携も欠かせないポイントである。これまでの取り組みで築き上げてきたつながりの継続と共に、新たな地区での関係性作りとの両方が必要である。

### 4) おわりに

2014年11月から開始された湊町三丁目での社会実験は、多くの利用者からの継続要望の声が寄せられたこともあって、期間延長を重ね、約4年間に渡り取り組んだ。2018年度途中で拠点を花園町に移し、これまでの経験を活かして新たな取り組みに挑戦し始めた。

ひろばがあった場所は駐車場に戻り、新しい拠点にも慣れ始めてきた頃、2019年度の社会実験の継続実施が決定した。本事業は、これまでも様々な人の力をお借りしながら取り組んできたが、引き続き2019年度も、課題解決に向けて関係者が一体となって尽力していきたい。

## PD2

## アーバンデザインスクール

アーバンデザインスクールは、将来のまちづくりの担い手を育成とまちなかのファンを増やすことを目的として、UDCM が設立された 2014 年から実施してきている市民参加型の学習プログラムである。

今年度は、基礎編（レクチャー＋まち歩きワークショップ）と実践編（それぞれのテーマで企画実践を行うグループ活動）との二段階プログラムを設定し、スクール事業を実施した。

- (1) アーバンデザインスクール  
事業主体：UDCM







写真 アーバンデザインスクールの様子

開催期間：平成 30 年 5 月～平成 30 年 12 月  
 開催場所：もぶるテラス (UDCM)  
 運営：アーバンデザインスクール運営委員会  
 参加者：基礎編 56 名、実践編 28 名

民講座の運営を経て、まちづくり活動の実践に至るまでまちづくりに関わる一連のプロセスを体験し、その中で自ら成長していくと共に、まちの歴史や文化に根ざした松山市ならではの魅力的なまちづくり活動に結実させていくことを目指している。

将来のまちづくりの担い手を育成するとともに、まちなかのファンを増やすことを目的として、平成 26 年 11 月より、まちづくりを実践的に学ぶ市民参加型の学習プログラム「アーバンデザインスクール」の推進・展開を図っている。

本スクールは、UDCM が母体となり、松山市都市再生協議会のメンバーである松山市内の 4 大学 (愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学) の教員が運営委員会を組織し、活動を遂行している。コンセプトは、「学生から一般市民 (社会人) まで、まちへの思いを持った幅広い世代が集い、参加者自らが柔軟な発想と方法でまちづくりを企画・実践する中で、まちづくりの進め方を学んでいく市民参加型・体験型の学習プログラム」である。参加者は、まちとの関わりや多様な人々との交流を深めつつ、まちづくりの企画からワークショップ、市



写真 テーマ選びとチーム分け



## お城下まったり星空カフェ（チーム井野森隼太郎）

本チームは、ストレス社会を生き抜く現代の人に、ほっと一息つくことのできる癒しの空間を提供することと、土地の利用価値を生み出すことを目的として活動を始めた。松山市での生活のなかで、癒しを与えてくれるような自然を感じる機会が多いとは言えない。また、祝祭日を中心に日中はイベントでにぎわう城山公園は、夜間はサラリーマンや学生が通勤・通学路として利用しているだけで有効活用されているとは言えない。そこで、日中は仕事や学業などで活動している人たちをターゲットに、ほっと一息ついてもらえるイベント「お城下まったり星空カフェ」を企画した。この企画を通じて、広大な芝生の敷地があり、街なかであるにも関わらず星空を見られる城山公園の夜間の利用価値を生み出したいと考えた。

「お城下まったり星空カフェ」は11月3日（土）と30日（金）の二日間にわたって開催し、約100人のお客様にご来場をいただいた。イベントでは星空観察に加え、あたたかい飲み物でほっと一息ついてもらおうと、これまでマルシェなどに出店経験のあるコーヒーショップに依頼し、コーヒーと軽食を販売した。また、本チームのメンバーが所属する芭蕉和紙プロジェクトチームから提供して頂いた芭蕉和紙を使った間接照明の展示と、照明作りのワークショップを行った。間接照明はチームで手作りし、会場の芝生の上に並べ、居心地の良い雰囲気を演出した。来場者には夜の公園でコーヒーを味わいながら、星空と間接照明に囲まれた空間を楽しんでもらった。夜空を楽しむよう晴天日に限定して開催し、芝生に間接照明を設置したことで、テーマである「癒し」をお客様に提供することを試みることができた。また、普段使われていない夜の城山公園に足を運んで頂くことで、城山公園の活性化にも貢献できたと考える。

今後としては、松山市の地域活性化にさらに貢献したいという思いと、市役所やお客様からイベントを継続して欲しいとの要望から、予算、日程を考慮しながら松山市の空き地などを使って色々な場所での『星空カフェ』の開催を検討したいと考えている。



写真 販売したコーヒー

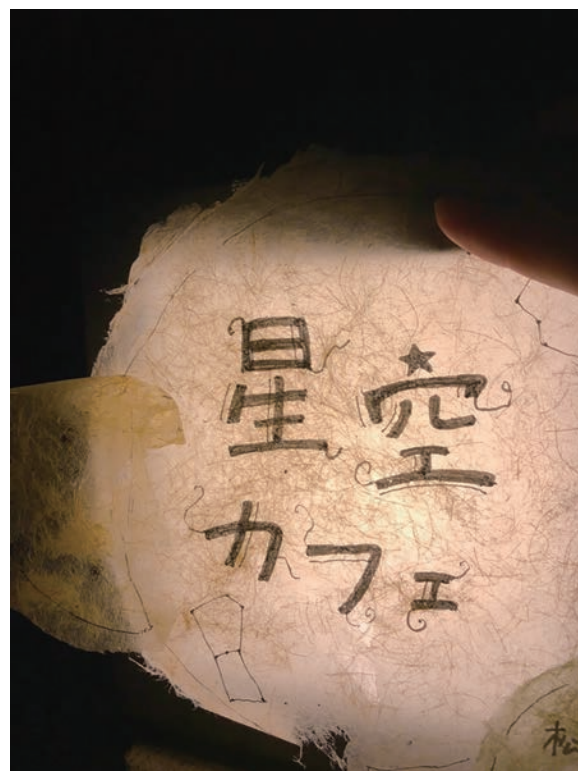


写真 手作りの照明

## 光の展覧会 in 柳井町（街を照らし隊）

柳井町商店街は、銀天街、大街道の中間あたりに位置している。銀天街、大街道から少しはずれた場所にあるためひっそりとした雰囲気があり、銀天街や大街道と比較すると、日中の人通りは少ない。しかしながら、その商店街の独特な雰囲気を活かした個性的なお店が多いこと、銀天街と大街道にアクセスしやすい場所に位置することなど、多くの魅力をもつ場所である。そんな隠れた柳井町商店街の魅力をもっと多くの人に知ってもらい、銀天街、大街道に続く松山第三のメイン商店街となるようなきっかけを作りたいと考えた。

柳井町商店街は、最近では若者や通な人たちから注目を集めている一方で、利用する人の多くは、目的を持って柳井町商店街を利用しているというよりは、ただの通勤・通学路として利用しているように感じた。そこで、通勤・通学時の薄暗く隠れてしまっていた商店街の魅力を発信し、「こんなお店があったんだ、お昼にまたゆっくり来てみたいな」と思ってもらえるような企画をしたいと考えた。また、柳井町商店街に流れている、歌謡曲やジャズ、J-POPなどのBGMにも着目し、“光×音楽による非日常的な商店街”の演出による「光の展覧会 in 柳井町」を実施することとした。

柳井町商店街の柔らかで温かいイメージに合わせ、手作りの灯籠を用いた光と、普段とは一味違うジャズの音楽で、非日常的空間を演出した。また、もっとわかりやすく柳井町について知ってもらいたいと思い、店舗の情報や、チームメンバーで見つけた「柳井町商店街の良いところフォト」をもとに編集したPR動画を制作し、空き地を利用してプロジェクターで投影した。本イベントを通して、柳井町商店街の方々からお褒めの言葉や感謝の言葉をいただいたり、通行人の方から興味を示して話しかけていただいたりした。また、プロジェクターで流している映像を、自身のカメラにおさめている方もいた。イベント開催中に、もう少し明るさがほしい、灯籠の数を増やしてほしい、というご意見や改善案もいただくこととなり、私たちのイベントが柳井町商店街のみなさまから好意的に受け止めていただいたことを実感した。

今後は、柳井町商店街が年に1回開催している「カモン夜市」というイベントとのマッチアップや、夜間店内に設置する灯籠のみを継続するといった意見が出ているが、どちらも現段階では検討中である。引き続き検討を

重ね、柳井町商店街での活動を継続させていきたい。

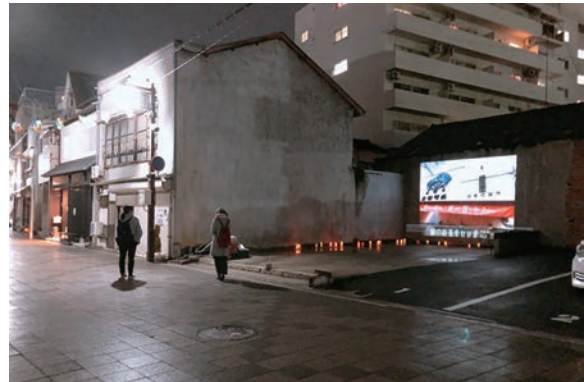


写真 イベント実施風景



写真 商店街の沿道店舗前に設置した手作り灯籠



## 大洲和紙を用いた空間演出（Washi Sky Project）

愛媛県には、砥部焼、今治タオル、木蠟、伊予絣をはじめ、地元ならではの伝統工芸品が数多くある。しかし、今は昔と比べて、伝統工芸品を身近なものとして捉え難くなっている。こうした中、職人さんの後継者不足も相俟って、伝統工芸品を将来にわたって維持していくことが難しくなっている。このような問題意識の下、本チームは、地域独自の伝統工芸品を用いたまちづくり活動を通じて、伝統工芸品の魅力を若い世代をはじめ地元の人に改めて知ってもらいたいと想い、大洲和紙を用いてまちづくりを展開できないかと考えた。

大洲和紙を用いて具体的にどのような活動を実施するかについてグループ内で話し合いを重ね、まちなかの街路に「和紙の屋根」を演出しようと考えた。そこで、この案を具体化するにあたって、内子町にある天神産紙工場を訪問し、大洲和紙の製作工程や特徴などについてお話を伺い、紙漉き体験も行った。和紙の屋根の演出は、沿道側の街路樹と店舗側の電灯の間にロープやテグスを張り、そこに和紙を固定する方法を採用した。また、和紙の屋根の下で、親子を対象にして大洲和紙を用いたペン立てと下敷きを作るワークショップを実施することとした。

本企画は、花園町通りで2回にわたって開催した。第1回イベントでは屋根の演出のみ実施し、第2回イベント時に屋根の演出に加えてワークショップを実施した。また、第2回については、「お城下マルシェ花園」イベントの開催日であったことから、お城下マルシェ実行委員会の方々と相談し、本イベントとの合同開催の形でとり行った。

通行人や商店街の方からのコメントとして、「伝統工芸が身近なものに感じた」、「伝統工芸品が街に溶け込んでいて新鮮に思った」、「花園通りが華やかになった」といった声をいただいた。この様に、和紙を空に掲げて屋根を演出するという新しい方法により、伝統工芸品をより身近なものに感じてもらう一つのきっかけになったと考える。また、ワークショップの際に大洲和紙の説明とクイズを行ったことで、直接的にも大洲和紙の魅力を伝えることが出来た。さらに、通行人へのアンケートより、84%の人が「大洲和紙以外の伝統工芸品を知りたいと思った」と回答したことから、今回の取り組みが地元の人に地元の伝統工芸品を知ってもらうための一つのきっかけになり得ることが示唆される。

今後の活動として、和紙の小物作りのワークショップを

継続していきたいと考えている。また、和紙の屋根についても、専門的な方のアドバイスをもらいながら、空間演出の質を高めていくことが重要な課題である。同時に、大洲和紙だけでなく、様々な伝統工芸品について更なる理解を深めながら、グループ結成当初からのメンバーの想いであった「伝統工芸品を用いたまちづくり」やそれを通じた「伝統工芸品の普及」について追及していきたいと考えている。



写真 和紙を用いたワークショップ



写真 和紙を使った花園町通りの演出



## 『たべまっぷ』の作成（エキカツ！）

JR 松山駅周辺には、飲食店や喫茶店などの店舗が多く存在する一方、それらが駅利用者や周辺施設の利用者に周知されていないことが現状である。実際に、松山駅に関わる方々にお話を伺ったところ、松山駅近くのホテルに置いてある駅周辺の店舗紹介マップのデータが古く、記載情報が店名のみであることや、松山駅の構内には周辺店舗を紹介する情報ツールがないこと、駅を訪れる人が減っており周辺のお店も減ってきていることなどが現状であった。また、松山駅周辺地域を対象とした土地利用勉強会にも参加し、意見交換を行ったところ、松山駅は人通りが少なく寂しいという意見や、行きたい店や施設がないという意見が出た。本チームは、こうした松山駅の現状を踏まえ、松山駅周辺のお店の魅力が伝わる冊子『たべまっぷ』を作成した。

『たべまっぷ』は、長く使ってもらえるようにしたいという思いから、様々な工夫を凝らして作成した。松山駅周辺の飲食店を示す地図には、駅からの徒歩所要時間を記載し、電車の待ち時間に利用できるようにした。また、店舗紹介記事では、普段知ることのできないお店の誕生秘話や、店員さんの人柄に迫るべく、お店の方との対談を行った。対談記事を載せることで、ただのマップではなく読み物として読んでもらうこと、そして店舗をより身近に感じてもらうことを狙いとした。店舗紹介の写真は、視覚的にお店の魅力がより伝わるよう、カメラマンに依頼し撮影していただいた。インタビューの様子や、店内、商品など各店舗の良さが伝わる写真になった。『たべまっぷ』は700部を発行し、JR 松山駅、愛媛大学、松山大学、松山市まちなか子育て・市民交流センター「てくるん」、松山駅周辺ホテル、松山アーバンデザインセンターに設置していただいた。

作成にあたって、行政、住民、企業など様々な立場からの意見を頂き、さらに、松山駅利用者からのアンケートを取ることで、実際の利用者のニーズを把握することができた。このことから、地域に関わる様々な視点・角度からの声を聞くことでより充実した情報ツールの作成に繋がったと考える。また、店舗への取材を通して、オーナーや店員さんからお店や地域に対する熱い想いを聞き、魅力的な街であることを再認識した。



図 『たべまっぷ』の記事



写真 ヒアリングの様子

## アートプロジェクト（アートプロジェクトチーム）

本チームは、食に関心がある人と、芸術に関心がある人が集まっており、食とアートを掛け合わせたイベントがあまり見受けられないことから食とアートをテーマにしたいと考えた。食とアートを組み合わせた活動として、フェルメールの「牛乳を注ぐ女のスープ」といった、有名な絵画からインスピレーションを得たアートスープを製造するという事例がある。その事例を参考にした、スープと松山ならではの俳句を用いたイベントを開催したいと考え、「俳句スープ」を企画した。内容は、チームメンバーで俳句のイメージに合うスープを作って参加者にそれを飲んでもらい、そのスープからイメージする俳句を選んでもらう、というものである。

松山に句碑がある正岡子規の俳句から、「春や昔十五万石の城下かな」、「松山や秋より高さ天守閣」、「国なまり故郷千里の風薫る」、「夏草やベースボールの人遠し」の4つを選定した。スープは、色合いの美しさや季節感、美味しさを考慮し、「枝豆のポタージュ」、「かぼちゃのポタージュ」、「トウモロコシのポタージュ」、「ほうれん草のポタージュ」を選んだ。これらの4つのスープを小さな紙コップに入れて無料でまちの人に提供し、どのスープからどの俳句が想起されるかを投票してもらった。投票は、それぞれの俳句が書かれた4本の木の枝に、スープを表した色の異なる4種類の紙の葉を付けてもらった。

11月18日、アーバンデザインセンターのクロージングイベントの日に合わせ、みんなのひろばを会場にイベントを行った。子どもから大人まで、多くの人に参加してもらい、たくさんの票を得られた。正岡子規の俳句だと全く分からない人や、全て正岡子規の俳句だと知っている人、句碑がどこにあるのかを知っている人、友達同士で相談している人など、参加者が俳句について思い思いに投票していた。このイベントの目的は、俳句に親しめる機会と意見・感性を共有できる場を提供することであったので、チームの思いが共有できたと感じた。

俳句の楽しみ方には句会や読書会などがあるが、今回は、「食」と組み合わせて俳句を楽しむという新しい方法を実践できた。そうすることで、過去の作品である俳句を現代の私たちがスープを飲んで「美味しい」と感じたり、季節感を味わったりすることで新鮮さを感じ、俳句をより身近に感じてもらえたのではないかと考えている。



写真 イベント準備の様子



写真 正岡子規の俳句の展示

## 夕焼けベンチ in 宝厳寺（イトコ道後🌄）

道後は愛媛県の有名な観光地であり、道後温泉本館や道後商店街は人通りが多く観光客などでにぎわっている。しかし、そこから一本外れた通りにはかつて道後の色町として栄えていた「上人坂」や、一遍上人の生誕地である「宝厳寺」、湯の大地蔵尊が存在する「円満寺」など歴史深い場所や情緒あふれる雰囲気を楽しむ場所が点在するにもかかわらず、人通りが少なくあまり知られていないのが現状であった。そこで、「上人坂」・「宝厳寺」エリアに着目し、これらの場所の存在を広め、より多くの人に足を運んでもらうきっかけづくりを目的に、「夕焼けベンチ in 宝厳寺」を企画し、「夕焼けベンチ」と「知られざる裏道後ツアー」の2つの取り組みを実施した。これら2つの取り組みを通して、上人坂・宝厳寺の魅力を観光客・地元の方を含め、多くの方に知ってもらおうと考えた。

11月の金曜日・土曜日の6日間にわたって道後の宝厳寺で「夕焼けベンチ in 宝厳寺」を開催した。宝厳寺に設置したベンチで夕焼け鑑賞とお茶と道後の銘菓でおもてなしし、日没した後、知られざる裏道後ツアーを行った。夕焼けベンチでは、3店舗の坊ちゃん団子の食べ比べを実施した。また、“#イトコ道後”をつけてSNSに投稿していただいた方にはチェキのプレゼントも行った。知られざる裏道後ツアーは、宝厳寺、上人坂、円満寺を通して道後温泉本館前までをルートとし、途中、裏道後について学ぶ3択クイズを行った。ツアー参加者には、明治時代と現在の上人坂を比較した自作の資料を記念として配布した。調べた内容を分かりやすい言葉に直し、伝えたいこと、忘れてはいけないことをツアー内で説明することができた。

イベント後に行ったアンケートで高い満足度を得られたことから、当初の目的であった道後の隠れた魅力を発見し、たくさんの人に知ってもらい、広めることが少しは達成できたのではないかと思う。そして、2回目、3回目と訪れてもらうきっかけづくりもできたと感じる。

今後、夕焼けベンチおよび知られざる裏道後ツアーの継続を検討している。地域の組織の方々や宝厳寺住職様と連携し、宝厳寺や道後でのイベント開催時に夕焼けベンチ in 宝厳寺を行いたいと考えている。加えて、道後の隠れた魅力を発信し続けられるようSNSでの情報発信やイベント開催などを継続して行っていきたい。



写真 宝厳寺境内からの夕焼け



写真 知られざる裏道後ツアーの実施風景



## PD3

## 移動する建築

2017年度に企画・制作された「移動する建築」は、幅広い世代が心地よく集い、賑わいを生み出し、地域の新たな魅力を引き出すような動くまちづくり拠点である。

2018年度は、完成した「まちを旅する4つの屋台」や「街の中の雲」を実際に運用し、地域にその活用を定着させるための取り組みを行なった。

(1) まちを旅する4つの屋台  
デザイナー：キム テボン

(2) 街の中の雲  
デザイナー：バンバ タカユキ



撮影：元屋地伸広

## (1) まちを旅する 4つの屋台



写真 お城下マルシェで活用される屋台

花園町通りの「移動する建築」は、「まちを旅する4つの屋台」である。同形フレームながら、棚や台、座面などがそれぞれ異なる折りたたみ式の4種の屋台だ。

2018年度、これらの屋台は、月一度行われている花園町通りのお城下マルシェをはじめ、UDCMのみんなのひろばでのイベントや結婚式などで使用された。

これら貸し出し管理はUDCMと松山市が協力しておこなったが、今後は、これらの屋台の貸し出しを地元組織が運営していくことが理想的であると考え、貸し出しマニュアルの案を作成した。



## (2) 街の中の雲

	第1回	第2回
日時	8月4日(土) 9:30~21:00 8月5日(日) 10:00~17:00	2月23日(土) 9:00-21:00 2月24日(日) 10:00-17:00
会場	道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 中庭	
来場者数	約2,000人(延べ人数)	約3,000人(延べ人数)
ゲスト	バンバタカユキ(街の中の雲デザイナー)、 チームM+(舞踊チーム)、椿のおもてなし (木春の体験WS)	バンバタカユキ(街の中の雲デザイナー)、 戸館正史(松山ブンカ・ラボ)
協力	道後温泉誇れるまちづくり推進協議会、伊予匠ノ会 帝人フロンティア株式会社、帝人株式会社	

表 「街の中の雲」道後オンセナート2018での開催実績

道後・飛鳥乃湯泉の「移動する建築」は、「街の中の雲」である。巨大な風船状の「雲」を地面から4-5mのところをつなぎとめる。

今年度は、「街の中の雲」を道後オンセナート地元プロジェクトとして出展することとなり、地元まちづくり組織である「道後温泉誇れるまちづくり推進協議会」および松山市内を活動拠点とするアートと地域の間組織「NPO法人 クオリティ・アンド・コミュニケーション・オブ・アーツ(略称:カコア)」や伊予匠ノ会とともに飛鳥乃湯泉の中庭に大きな風船状の「雲」を2度浮かべた。開催実績は上表のとおりである。

また、これらの運営を通じて、雲を設置運営するためのマニュアルを制作し、道後温泉誇れるまちづくり推進協議会と共有した。

### ①第1回 街の中の雲

初回は真夏の8月初旬に開催された。昼間は飛鳥乃湯泉中庭で涼めるように、噴水の演出を行うとともに周囲にすのこを配置し、裸足になっての水遊びを促す空間づくりを行った。果たして大勢の子供達が雲の不思議な動きを見上げ、また噴水遊びに興じる風景が見られた。

なお、アーバンデザインスクールの卒業生であり、スクールで開発した商品「木春」を元に個人事業を開業した「椿のおもてなし」チームに協力を願い、アロマの体験ワークショップを中庭にて開催した。

夕方からは、雲の下に手づくりの灯籠を配置し、雲を照らして幻想的な光の空間を演出した。また、その場所

で松山の舞踊チームである「チームM+」による踊りが展開された。

なお、手作りの灯籠は、愛媛県森林環境保全基金県民活動公募事業の補助を得て別途「灯籠づくりワークショップ」を開催し、市民や観光客とともに制作したものである。県産材のヒノキ材で台座をあらかじめ制作しておき、そこへ大州和紙のシェードを巻きつける構造となっている。ワークショップでは、このシェードに参加者が好きに絵を描き、オリジナルの灯籠を制作した。

### ②第2回 街の中の雲

第2回は当初10月開催の予定であったが、天候が悪く延期となり、2月に実現した。冷え込みが強いため、雲の下に手作りのこたつを設置し、来場者が誰でも入れるようにした。また、広場内のテントでは飴湯を無料配布し、道後オンセナート最終週末のまち歩きを促進する(休憩所として機能させる)ことを試みた。夜間は第1回と同様に手作り灯籠を中庭に散りばめる灯りの演出を行った。

こたつでは、2日間にわたりトークイベントを開催。初日はバンバタカユキ氏をゲストに迎え、UDCMの尾崎・四戸と「デザインと温泉」というお題でトークを行った。二日目は戸館正史(松山ブンカ・ラボ)をゲストに招き、バンバ氏、尾崎、四戸で「アートと温泉」というお題でトークセッション「こたつトーク」を行い、足を止める方、こたつにあたりながら聴かれる方で盛況となった。





写真 第1回昼間の演出「水涼みの庭」



写真 水遊びに興じる子供たち



写真 「チームM+」の踊り



写真 灯籠づくりワークショップ



写真 第2回夜間の演出「光の広場」(撮影:元屋地伸広)



写真 雲を揚げる瞬間に集まる子供  
(撮影:元屋地伸広)



写真 昼間の演出「こたつ庭」  
(撮影:元屋地伸広)



写真 「こたつトーク」  
(撮影:元屋地伸広)



## PD4

# メディア制作

UDCM 設立以来、まちなか情報の発信を目的としてフリーペーパーとラジオを使った情報発信を行ってきた。今年度も、市民編集部によりまちなかマガジン「もぶる」の発行と、FM 愛媛「まちラヂ」の制作を行った。またラジオ音楽ドラマの制作を河原学園とともに主催し実施した。

- (1) まちなかマガジン「もぶる」  
企画・制作：UDCM・もぶる編集部
- (2) FM 愛媛「まちラヂ」  
企画・制作：UDCM・FM 愛媛
- (3) ラジオ音楽ドラマ  
共催：UDCM・河原学園 / 後援：愛媛県、松山市、西条市 / 協力：FM 愛媛





## (1) まちなかマガジン「もぶる」



写真 編集ワークショップの様子(もぶるテラス)

UDCM 及びまちなかの情報発信、行政情報の発信を行うために、平成 28 年に取材方法、写真撮影方法、紙面デザインなどを学ぶ編集ワークショップを開催し、その WS 参加者の中から希望者を募り「まちなかマガジン【もぶる】」を制作した。学生や主婦、市民がそれぞれの視点と生活観からまちやまちづくりを考えながら紙面づくりを行い、そのプロセスを通じて、参加者相互の交流促進、紙面づくりのスキルアップ、文章力の向上、コミュニケーション能力の向上を図っている。今年度は、8～11号を各 10,000 部発行した。配布先は松山市役所、支所、コミセン、コムズ、道後温泉事務所、坂の上の雲ミュージアム、FM 愛媛、まちづくり松山、取材協力先等である。

10 号の読者プレゼントにご応募いただいた方の中から松山市在住の女性の方のコメントを紹介する。

### 〔読者からの感想〕

「もぶる」さん、10 号発刊おめでとうございます。毎号興味深く読ませて頂いております。育児中の現在、子どもの世話に追われて、世間の動きに疎くなりがちですが、そのような状況の中、「もぶる」さんはとても貴重な情報源です。全ページカラーでとても見やすいですね。サイズも持ちやすく、ボリュームも多すぎず少なすぎず気軽に楽しめますね。また、大学生の方々の様々な活動報告から、愛媛の若い力を感じ、頼もしくも思います。これからも楽しみに拝見致します。



写真 編集ワークショップの様子(坂の上の雲ミュージアム)



8号

1. チョコっとしあわせ 発見記
2. 猫を求めて癒し旅
3. まちなかアートめぐり
4. まちの若者×山里の高齢者(松山大学 Muse)
5. 旧遍路宿 坂本屋日記
6. 愛媛大学×高雄科技大学 環四国プロジェクト
7. 移動する建築
8. 坂の上の雲フィールドミュージアム通信



9号

1. 移動する建築
2. 坂の上の雲フィールドミュージアム通信
3. 聖カタリナ大学ボランティアセンター
4. 愛媛大学×高雄科技大学 環四国プロジェクト
5. 猫を求めて癒し旅
6. 分けいても分けいても「？」
7. まちなかアートめぐり
8. 編集長レポート キセキの高校生



10号

1. さよなら、もぶるテラス
2. 旧遍路宿 坂本屋日記
3. 坂の上の雲フィールドミュージアム通信
4. カタリナ散歩道
5. 愛媛大学×高雄科技大学 環四国プロジェクト
6. 猫を求めて癒し旅
7. まちなかアートめぐり
8. 編集長レポート 移住者が手がけるパン屋



11号

1. 夕焼けベンチ in 宝蔵寺
2. 坂の上の雲フィールドミュージアム通信
3. まちなかアートめぐり
4. 寝ている写真を起こそう!
5. 旧遍路宿 坂本屋日記
6. 愛媛移住者レポート
7. カタリナ散歩道
8. 愛媛大学×高雄科技大学 環四国プロジェクト

[今年度発行した各号の表紙と目次]



## (2) FM 愛媛「まちラヂ」

FM 愛媛の協力によるラジオ番組「まち@ラヂ」（毎週水曜 11:40-12:55）では、昨年度に引き続き、松山アーバンデザインセンターが関わっているプロジェクトやイベントの紹介、まちづくりの担い手へのインタビュー、街なか情報を発信した。

### 1) 番組制作の体制

昨年度末より番組制作（企画、取材調整、取材・収録、編集等）をディレクターによる直営方式から、運営を担う市民と協働する方式としてきた。今年度は、市民担当者が中心となり、市民アナウンサーと協力して番組制作を進める市民中心の体制へとシフトしている。

### 2) 週替わりテーマの設定

番組は週ごとにテーマを設けて構成を検討している。毎月第一週は昨年度までと変わらず、野志松山市長と市内各地の代表者および尾崎ディレクターによるタウンミーティングや地域の話話を語り合う回であるが、2018 年度からは、毎月第二週目のテーマを「場所」、第三週を「人」、第四週を「UDCM からの情報」として番組構成を計画している。第二週は、坂の上の雲ミュージアムの松本啓治館長にご協力をいただき、現地を歩きながら歴史や地形などに関する詳しい解説をお聞きする内容である。第三週は、毎回新しい人との出会いを心がけ、様々な取材や調査、運営担当者のプライベートの縁を駆使し、勢いがある取材・句の「人」の取材を実現できるよう努力している。

### 3) 番組制作の精度向上

上記のテーマ設定の他、番組の魅力を高めるための細やかな改良を随時行なっている。例えば、FM 愛媛の担当者からレクチャーを受け、伝わる言葉や伝え方について学ぶ機会を持った。この成果は特に「まちなか情報」の伝え方の改良につながっていると考えている。また、ラジオで紹介したイベントを Facebook や Instagram などの SNS 媒体で重ねて広報し、相乗効果を狙うとともに、ラジオ自体の宣伝も行っている。さらに、放送後に音声データにスライドショーを追加して YouTube へアップしているが、この作業を運営担当者が自ら行うことにし（今までは外注していた）、インタビュー内容と画像を精度よ

く一致させることができるようになってきている。また、放送後には取材先にお礼にいくなど、できる限り足を運んで出演者・関係者と交流を持つことで認知度や親しみの向上を図っている。

これらは市民中心の体制としているからこそないうる成果であり、今後も連携体制を強め、魅力ある番組づくりを心がけたい。



写真 市長インタビューの様子



写真 市民アナウンス部



写真 取材収録の様子

放送回	放送日	放送内容
第153回	2018.04.04	野志市長インタビューPart 23 -かやまち商店街タウンミーティング-
第154回	2018.04.11	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(湯築城跡①)
第155回	2018.04.18	松山の人にインタビュー(愛媛移住コンシェルジュ:板垣義男)
第156回	2018.04.25	松山アーバンデザインスクール4期生募集について(羽鳥剛史)
第157回	2018.05.02	野志市長インタビューPart 24 -潮見地区タウンミーティング-
第158回	2018.05.09	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(湯築城跡②)
第159回	2018.05.16	松山の人にインタビュー(城山公園ピクニックサービス)
第160回	2018.05.23	UDCM 新メンバー(四戸秀和)紹介
第161回	2018.05.30	"まちづくり"について(羽鳥剛史)
第162回	2018.06.06	野志市長インタビューPart 25 -生石地区タウンミーティング-
第163回	2018.06.13	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(湯築城跡③)
第164回	2018.06.20	松山の人にインタビュー(道後ひめや3代目:栗原正行)
第165回	2018.06.27	UDCM 新メンバー(板東ゆかり)紹介
第166回	2018.07.04	野志市長インタビューPart 26 -小野地区タウンミーティング-
第167回	2018.07.11	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(城山公園①)
第168回	2018.07.18	水害に遭われた方々へ写真の保存方法の呼びかけ(アトリエ maman)
第169回	2018.07.25	スポーツから見た"まちづくり"(山中亮)
第170回	2018.08.01	野志市長インタビューPart 27 -味生地区タウンミーティング-
第171回	2018.08.08	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(城山公園②)
第172回	2018.08.15	防災について(ダイキ(株))
第173回	2018.08.22	UDCM との関わりについて(小川直史)
第174回	2018.08.29	松山アーバンデザインスクールについて(小川直史)
第175回	2018.09.05	野志市長インタビューPart 28 -防災タウンミーティング-
第176回	2018.09.12	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(城山公園③)
第177回	2018.09.19	松山の人にインタビュー(子育て中の写真の楽しみ方:アトリエ maman)
第178回	2018.09.26	全国まちなか広場研究会とUDC会議について(四戸秀和)

放送回	放送日	放送内容
第179回	2018.10.03	伊達宗城について
第180回	2018.10.10	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(三津浜①)
第181回	2018.10.17	松山の人にインタビュー(松山商業高校生による三津浜市開催について)
第182回	2019.10.24	松山ブンカ・ラボについて(戸館正史)
第183回	2018.10.31	もぶるテラス移転について
第184回	2018.11.07	正岡子規について①
第185回	2018.11.14	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(三津浜②)
第186回	2018.11.21	松山の人にインタビュー(子育て中でも出来る活動の場提供:ママふわLIFE)
第187回	2018.11.28	ありがとう もぶるテラス お別れ会の様子
第188回	2018.12.05	正岡子規について②
第189回	2018.12.12	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(道後温泉①)
第190回	2018.12.19	松山アーバンデザインスクール4期生報告会について(羽鳥剛史)
第191回	2018.12.26	松山アーバンデザインスクール4期生総括(羽鳥剛史)
第192回	2019.01.02	野志市長インタビューPart 29
第193回	2019.01.09	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(道後温泉②)
第194回	2019.01.16	松山の人にインタビュー(五明の里のまちづくり活動について①)
第195回	2019.01.23	松山の人にインタビュー(五明の里のまちづくり活動について②)
第196回	2019.01.30	UDCM 移転オープニングイベントの様子
第197回	2019.02.06	野志市長インタビューPart 30 -久枝地区タウンミーティング-
第198回	2019.02.13	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(秋山兄弟生誕地①)
第199回	2019.02.20	松山の人にインタビュー(クルスポについて:井上俊和)
第200回	2019.02.27	MOBURU マガジン編集部紹介
第201回	2019.03.06	野志市長インタビューPart 31 -正岡地区タウンミーティング-
第202回	2019.03.13	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(秋山兄弟生誕地②)
第203回	2019.03.20	松山の人にインタビュー(料理と婚活で地域活性:山口早苗)
第204回	2019.03.27	2018年度UDCMの活動振り返り(柳原卓)

表 まちラヂ放送記録



### (3) ラジオ音楽ドラマ

#### 「サイクリングの神様～愛媛・台湾の絆、紡いで」制作

愛媛県出身で台湾電力の父と称される松木幹一郎の没後80年と愛媛・台湾定期航空便就航を記念して、愛媛県と台湾の交流を促進する目的で、台湾の文化に触れながらサイクリングと若者の友情をテーマにラジオドラマをFM愛媛と連携して制作し、3月17日(日)に一時間番組として放送された。

物語は「瀬戸内しまなみ街道」と姉妹自転車道提携を結んでいるサイクリストの聖地として知られる台湾のダム湖「日月潭」が舞台で、サイクリングで交流する愛媛県と台湾の学生たちが日月潭を訪れ、台湾の文化と歴史を振り返りながら交流する。ダムを建設した人物が愛媛県出身の実業家松木幹一郎だったことを知り、日本国内では忘れられたが、「台湾電力の父」として知られ台湾の近代化に貢献した松木を顕彰する。

出演者は公募した市民と河原学園声優・タレント科の学生、高校生の49名で、台湾人留学生も参加してのワークショップとなった。声優として第一線で活躍する俳優の森一馬氏が、ワークショップを行い、発声から日本語特有の言い回し方、セリフのやりとりまでレッスンを行った後収録した。今回のワークショップが愛媛・台湾の友好、発展の一助となることを祈っている。



写真 集合写真



写真 イベント実施の様子

## PD5

# 松山動線 2050 スタディツアー

グッドデザイン賞(2018)を受賞した「花園町通り」「飛鳥乃湯泉」「移動する建築」の3つのプロジェクトが生まれた背景やプロセスなどを紹介することとともに、今後の松山の都市計画やまちづくりに関する取り組みを現地で体験してもらうことを目的として、少人数向けのツアーを企画・実施した。

- (1) 松山動線 2050 スタディツアー  
企画・制作：UDCM / 後援：日本デザイン振興会





GOOD DESIGN AWARD 2018 | 受賞デザインを知るスタディツアー

## 松山動線 2050

本年度グッドデザイン賞を3件獲得した「花園町通り」「道後温泉別館飛鳥乃湯泉」「移動する建築」を、動線にしたがって巡り、松山の未来を見えるスタディツアーです。ツアー中に、さまざまな人の声と空間体験するプログラムも用意されています。

日時・定員  
2018年11月  
10日(土) 10:00- / 14:00-  
26日(月) 10:00- / 14:00-  
定員：各名団(計24名)  
集合：松山アーバンデザインセンター (UDCM)  
解散：松山駅前(約15分) / 伊予鉄松山市駅

プログラム  
01 もぶるテラス・みんなのひろば  
02 空き地  
03 UDCM 新拠点  
04 花園町通り  
05 道後温泉別館 飛鳥乃湯泉  
06 道後温泉本館  
07 上人坂 (写真等)

所要時間：約3時間  
※事前予約、事前申し込みを必ずおこなってください  
※お申し込み順で行われます  
※当日の都合により、変更がある場合があります

申込・お問い合わせ  
● Pezla  
https://pezla.jp/mausan-pezla.com/  
※上記メールアドレスからお問い合わせください。  
● UDCM 松山アーバンデザインセンター  
shinshu.hokkaido@time.usc.ac.jp (担当：2階)

会場 UDCMセンター長 伊藤 真二 / ディレクター 西戸 真由

図 ツアーフライヤー

### 1) 趣旨

UDCM が関与した「花園町通り」、「道後温泉別館飛鳥乃湯泉」、「移動する建築」の3つのプロジェクトが、日本デザイン振興会「グッドデザイン賞(2018)」を受賞したことを受け、これらの作品を紹介しながらまちをめぐるツアーを企画実施した。

### 2) 実施内容

ツアーパフォーマンスの手法を参照し、少人数の参加者がまちを歩きながら様々な仕掛けに出会うことで、3つの作品の理解と今後の松山の都市計画やまちづくりの取り組みの関心を深めてもらうことを目的としたまち歩きプログラムを企画実施した。

本事業の主な対象となるグッドデザイン賞受賞作品は、花園町通りと道後温泉地区に立地する。スタート地点を「もぶるテラス」(湊町3丁目)とし、「みんなの広場」、「花園町通り」、「道後温泉別館飛鳥乃湯泉」という巡回ルートを設定した。参加者に対しては、各チェックポイントで渡される「指示書」で、次の目的地及び作品に関する情報提供を行った。受賞作品にたどり着くと、実際に事業に携わった研究者やデザイナーが現れてその当時の状況・

### - 案内図



図 ルートマップ

回	月日	参加者数
1	11/10 (土) 10:00-12:30	3名
2	11/10 (土) 14:00-16:30	3名
3	11/26 (月) 14:00-16:30	4名
計3回	計2日間	計10名

表 実施日と参加者数

様子を語ってもらう演出とした。

ツアー後半では、「道後温泉別館飛鳥乃湯泉」の見学後、現在進行中の道後温泉本館耐震改修工事の説明に加え、現在協議中の上人坂の空間改変計画について、事業着手前の現場と計画図面をみてもらいながら、計画者が構想を参加者にプレゼンするプログラムとした(第2回目のツアーでは実際の住民説明ワークショップを傍聴してもらった)。最後は、上人坂の坂下広場予定地(当時は更地)にセットされた移動する建築「まちを旅する4つの屋台」にて参加者とツアーを振り返り、ツアーのエンディングとした。本ツアーは、11/6(土)、11/30(月)の2日間で全3回、計10名に対して実施した。

### 3) ライナーノーツ

参加者は、ツアーをめぐる中で、「指示書」や「落としもの」など、各作品や地域の歴史にまつわる情報が書かれたカードを受け取る。これらを集めると、本ツアーの解説書「ライナーノーツ」が完成する。この冊子には、今回のツアーで実際に現地にお越しいただけなかったグッドデザイン賞受賞関係者の文章なども収録されている。





写真 ツアー中の様子



写真 ツアー中の様子



写真 ツアー中の様子



図 ライナーノーツ表紙

# 研究活動等

1. アーバンデザイン研究会 p64-
2. 社会実験の効果検証 p65-
3. 「地方中核市におけるアーバンデザインセンターの実践  
松山アーバンデザインセンターを事例に」 p67-
4. 全国まちなか広場研究会 &UDC 会議 p70-



## 1. アーバンデザイン研究会

今年度は、「松山 2060 ヴィジョン」アーバンデザインスタジオの企画として研究会を実施した。今年から始めるアーバンデザインスタジオのテーマに合わせ、羽藤センター長に「駅をつくる仕事」というテーマで、国内外の様々な駅デザインとその特徴に関してレクチャーをしていただいた。

国内の駅周辺整備の事例としては、長崎駅、徳山駅、延岡駅、渋谷駅について、国外の事例では、ロッテルダム、オムドフェール広場、Anaheim Regional Transportation Intermodal Center、Gare de Strasbourg 等を取り上げ、その特徴や計画思想について紹介いただいた。また、今後世界的にはアジアの人口が増大し東アジアへの観光客が増加することなど今後の世界的な変化を踏まえた交通結節点のあり方や、グランバリ計画における広域的視点から都市構造の再構築を行う事例等、さまざまな視点を提供いただいた。

来年度から本格始動するスタジオでは、今回得られた様々な観点から松山の駅周辺の都市空間の将来像の検討を進めていきたい。



写真 レクチャーの様子

---

### 第 11 回アーバンデザイン研究会

#### 「駅をつくる仕事」

日時：2019 年 3 月 22 日（金）18:30 ～ 20:30

場所：もぶるラウンジ（UDCM）

参加者：約 15 名

（UD スタジオ履修者 8 名、行政職員 6 名ほか）

ゲスト：羽藤 英二氏

（UDCM センター長、東京大学教授）

---

## 2. 社会実験の効果検証

UDCMでは、松山市都市整備部都市デザイン課による「中心市街地賑わい再生社会実験」の運営を受託している。2014年から2018年末まで、湊町三丁目の「もぶるテラス」「みんなのひろば」を拠点とした中心市街地の賑わい再生に取り組んできた。松山市は、これら湊町三丁目の社会実験拠点を花園町通りへ移転させることを決定し、「もぶるテラス」は2018年11月18日に、「みんなのひろば」は2019年1月27日にそれぞれ閉鎖し、新たに花園町通りにて「もぶるラウンジ」がオープンした。

ここでは、湊町三丁目における4年強の活動がどのような効果をもたらしたのかを分析することを目的とする効果検証活動のうち、本年度の成果報告をする。なお、効果検証は現在も継続中であり、その最終成果は改めて報告の場を持ちたい。

### 1) 本年度の分析概要

本年度は、まちなか交流拠点である「もぶるテラス」(以下、テラス)、「みんなのひろば」(以下、ひろば)の利用実態について分析を行った。具体的には、利用者数データに基づき、その長期的な増減について分析を行った。

### 2) 利用者数に関する効果検証の考え方

ひろばとテラスの利用者数を図示する。一目して、集客力の大きいイベント開催日の利用者数が飛び抜けていることや、日によって細かな増減があることがわかる。つまり、利用者数の多寡はイベントの有無によっても異なると考えられ、またおそらく天候などにも影響を受けていると考えられる。これらは利用者数変化に対して数時間～一日単位で影響を及ぼす「短期的影響因子」である。一方で、まちなか交流拠点の存在が時間をかけて市民に浸透していけば、じわじわと利用者数は増加していくと考えられる。このような長期的な増減傾向を把握するためには、短期的影響因子による影響が少ない日を抽出し、それらの日における利用者数の増減を観察する方法が考えられる。

そこで、まず短期的影響因子が利用者数多寡に与える影響有無について確認したのち、それらの影響が比較的少ない日における利用者数の動向を調べることにする。

なお、利用者数はテラスでは毎日計測、ひろばではイベント開催時および毎月2回(平日1回・休日1回)計測しデータを得ている。そのうち、今回の検証活動の対象期間は

2014年11月1日から2018年7月31日までの45ヶ月間としている。ただし、UDCM休館日(年末年始:12/29～1/3、暴風警報発令:2018/7/29)はデータ採取を行っていないため除外する。また、毎年6～8月の土曜に7週にわたって行われる「土曜夜市」は大街道・銀天街を舞台とした夏の風物詩とも言えるイベントで、湊町三丁目周辺の季節行事の中では飛び抜けて大きな集客力があるため他のイベントと同列に扱うことが難しいので除外する。

### 3) 一般利用者とイベント利用者の相関

ひろばとテラスにおける来訪者カウント調査のうち、一般時(イベント非開催時)の利用者(以下、一般利用者)とイベント時の利用者(以下、イベント利用者)の数を分けて整理し、同じ日におけるこれら相互の相関を見ると下表の結果が得られた。Nはそれぞれの有効データ数である。

ひろばでのイベント利用者数とテラスでのイベント利用者数に0.594の正の相関(一方が増えればもう一方も増える関係性)がみられるが、これは双方ともイベントによって普段より利用者が増えているためであると考えられる。

一方で、ひろばでのイベント利用者数とテラスの一般利用者数にも0.409と正の相関がみられる。これはひろばで集客力のあるイベントが開催されると、テラスに立ち寄る人が増える傾向があるということを示唆している。より一

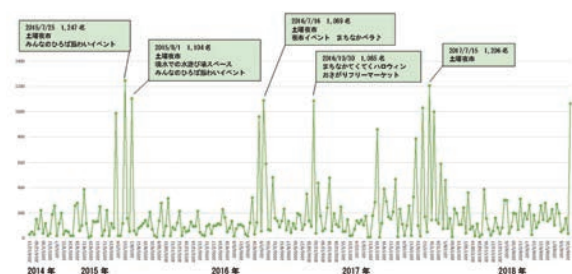


図 みんなのひろば利用者の時系列変化 (N=239)

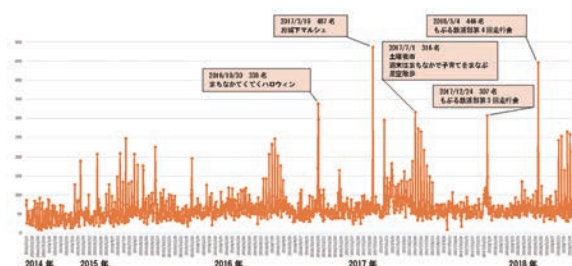


図 もぶるテラス利用者の時系列変化 (N=1,342)

般化した言い方をすれば、「屋外でイベント実施をした場合、隣接する屋内施設にも利用者が流れる」ということであろう。無論、テラスに無料トイレが備えられていることや、空調があること、wi-fiがあることなどがその一因であることが推測される。

4) 天候の影響

次に、利用者数と天候の相関を見る。

気象庁から入手できる統計データのうち、平均気温、最高気温、最低気温、気温偏差(平均気温-20℃の絶対値)、降水量の合計、日照時間、平均風速、平均雲量、合計全日射量、平均蒸気圧、平均現地気圧について、それぞれテラスの一般利用者数との相関を調査すると、下表の結果を得た。(ひろばの一般利用者数はサンプル数不足のため相関係数は算出していない。)

もっとも相関が強いのが合計全日射量であり、相関係数 0.319 と弱い相関が確認できる。また、日照時間も 0.266 と弱い相関を示しており、天気がよいとテラス利用者数も増えることを示唆している。

5) テラス利用者数の長期的な増減

以上の結果を踏まえ、テラス利用者数の長期的な増減を把握する。短期的に利用者数増減に影響を与える因子として、①テラス・ひろばでのイベント、②周辺(大街道・銀天街)でのイベント、③合計全日射量の三つが想定

される。それゆえ、これら短期的な影響因子を取り除くためにテラス・ひろば・周辺でのイベントが開催されていない日であり、なおかつ合計全日射量(平均 14.11、標準偏差 7.89)が平均の 14.11 から上下 3.00 以内の計 131 日(休日 36 日、平日 95 日)の利用者数を抽出し、図化したものを以下に示す。

休日は飛び値が多く全体的な傾向が掴みづらいが、平日は全体的に増加傾向があることが見て取れる。2014 年 11 月頃には 30 名前後であった利用者数が、2018 年 6 月頃には 60 名前後へとほぼ倍増している。

6) まとめ

ひろばやテラスの利用者数について調査した結果、次のことがわかった。

- ①ひろばで集客力のあるイベントが開催されると、テラスに立ち寄る人が増える傾向がある(屋外でイベント実施をした場合、隣接する屋内施設にも利用者が流れる)
  - ②テラス利用者数は、合計全日射量や日照時間が多い(長い)と増える傾向がある。
  - ③イベントなどがない平日のテラス利用者数は、2014 年から 2018 年にかけてほぼ倍に増加している。休日については一定の傾向が確認できなかった。
- 今後、これらが周辺街区に与えた影響について検証をしていきたいと考えている。

相関係数		みんなのひろば	
		一般利用者数	イベント利用者数
もぶるテラス	一般利用者数	0.241 (N=162)	0.409 (N=75)
	イベント利用者数	0.352 (N=99)	0.594 (N=60)

表 イベント利用者数と一般利用者数の相関係数

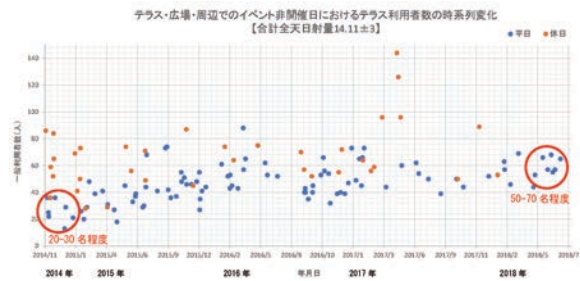


図 テラス・ひろば・周辺でのイベント非開催時かつ合計全日射量が 14.11 ± 3 の日におけるテラス利用者数の時系列変化

	テラス一般利用者	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均気温の 年平均差 (°C)	気温偏差	降水量の 合計(mm)	日照時間 (時間)	平均風速 (m/s)	平均雲量 (10分比)	合計全日射量 (MJ/m <sup>2</sup> )	平均蒸気 圧(hPa)	平均現地 気圧(hPa)
テラス一般利用者数	1.000	0.149	0.182	0.110	0.105	-0.199	-0.179	0.266	0.045	-0.156	0.319	0.038	-0.022

表 気象条件とテラス一般利用者数の相関係数



### 3. 「地方中核市におけるアーバンデザインセンターの実践 松山アーバンデザインセンターを事例に」

(日本建築学会計画系論文集 No.755 (2019年1月)pp.167~177、投稿論文の要約)

日本におけるアーバンデザインセンター第一号は2006年に設立された柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)であり、現在は全国に19箇所のアーバンデザインセンターが存在する。

アーバンデザインセンターは公民学の連携によるまちづくりの実践拠点として位置付けられるが、「公」「民」「学」のプレイヤーやそれらのバランスは各都市でそれぞれ異なる。これは全国のアーバンデザインセンターがその都市の状況に合わせて構想・設立されるためであり、裏を返せば各都市の特性によってアーバンデザインセンターの発揮するもしくは求められるはたらきは異なるものと言える。

国内のアーバンデザインセンターに関する既往研究は、新市街地に設立されたUDCKの3年間の実践成果と課題を分析した前田(2010)\*1や、地方小都市における適用事例である田村地域デザインセンター(UDCT)の設立経緯と初動期の取り組みを分析した前田ら(2010)\*2があるが、松山市のような地方中核市の既成市街地におけるアーバンデザインセンターの研究は存在しておらず、これをUDCMを題材に研究することとした。

研究は、ディレクターの小野が中心的に取り組み、尾崎、片岡、羽鳥、羽藤がサポートする体制をとった。研究成果は学術論文として、日本建築学会に投稿。「地方中核市におけるアーバンデザインセンターの実践 松山アーバンデザインセンターを事例に」という題で日本建築学会計画系論文集 No.755(2019年1月)のpp.167-177に掲載されている。詳細はそちらに譲り、ここではその結論部分のみ要約(一部抜粋)して示す。また、過去のUDCMの事業タイムラインを整理したFig.2(UDCMの事業タイムライン)を抜粋して掲載する。

#### 【UDCの3資質 ※1に見るUDCMの成果と課題】

##### 1) 連携による空間計画

###### ①組織体制

- ・都市再生協議会とUDCMの二層式体制により、専門家による地域に密着した活動を公民学連携の運営と体制により担保している。
- ・大学の予算執行管理・人材雇用により、予算運用の

公平性および専門家の身分保障がなされている。また市民と専門家の関係性が良好に保たれている。

- ・一方、大学経理上、収益活動が実施できず、自主的な活動拡大が望めないという課題がある。

###### ②都市空間デザインへの関与

- ・都市空間整備事業に様々な形で介在し、この実績が知られ地元民間から支援依頼が増えている。
- ・行政や民間による事業化が困難な場合にUDCM自ら事業を興すこともある。
- ・反面、当初期待されていたビジョンの主導やシンクタンク機能はまだ十分とは言えず、今後は事業とのバランスを取っていく必要がある。

###### ③地元組織との協働

- ・都市空間整備事業、テラスとひろばの運営、アーバンデザインスクール(UDS)の運営などを通じて地元組織と協働してきた。
- ・一方で、UDCMが何を目指し、それをどう実現しようとしているのかを明示することが地元との協働関係の充実化において未だ重要である。

#### 2) 専門家の主導

##### ①ビジョン

- ・地方中核市ならではの事情もあり、ビジョンの検討開始に時間がかかったが、今後はビジョンのもとで活動展開していく必要がある。

##### ②専門家

- ・UDCMは4人の専任スタッフを置き、さらに地域内外の専門家とのネットワーク化によりハードからソフトまで幅広い専門性を網羅している。

##### ③地域の担い手育成

- ・UDSやテラス・ひろばの運営をはじめ、さまざまな事業を通じて人材の掘り起こしと育成を行なっている。

#### 3) 拠点と見える化

##### ①地域との協働による整備・運営プロセス

- ・テラスとひろばの整備・運営にあたっては、市民との

事業 project	財源 project resource	UDCM の関与等 involvement of UDCM					
		2013	2014	2015	2016	2017	2018
設立経緯 establishment		設立準備 preparation for establishment	2014.2 都市再生協議会・UDCM 設立	UDCM 設立 establishment of Committee for Urban Renewal in Matsuyama City and UDCM	2014.11 拠点施設開設 opening of office, terrace and public space	2014.4 愛媛大学に寄附講座開設・専任スタッフ常駐開始 endowment course open in Ehime University / full-time staffing	
松山市都市再生協議会 Committee for Urban Renewal in Matsuyama City							
ビジョン future vision		構想検討 drawing concept	ビジョン検討 considering vision		まつやま 2050 ビジョンの検討 considering vision 2050		
道後温泉活性化 revitalization of Dogo-onsen area	松山市 Matsuyama City	道後温泉活性化基本 / 実施計画 Dogo-onsen Revitalization Master/Implementation Plan	①基本計画策定業務受託 master plan production	②実施計画策定業務受託 implementation plan production	2017.12 鳥島乃湯急カーブアップ	2015.4 道後温泉活性化基本計画策定 (松山市) formulation of master plan Asaka-no-Yu hot spring open	
	地元組織 local organization	景観まちづくりデザインガイドライン facade design guidelines		③ガイドライン策定支援 support guideline production	2017.3 ガイドライン策定 formulation of guidelines	④ガイドライン実施支援 support guideline operation	
	地元組織 local organization	道後温泉観光会再生整備検討委員会 Committee for rebuilding of Dogo-onsen tourist house				support rebuilding ⑤建替支援	
	民間企業 private enterprise	ホテル・旅館建替 large-scale private hotels rebuilding				ghing/design advice ⑥デザインアドバイス	
花園町通り空間改良 improvement of Hanazonomachi-street	松山市 Matsuyama City	花園町通りの公共空間活用等に関するワークショップ workshop on public space on Hanazonomachi-street	①WS 開催業務受託 workshop operation		2017.9 竣工 completion		
	地元組織 local organization	景観まちづくりデザインガイドライン facade design guidelines	②WS 開催業務受託 workshop operation	2015.8 ガイドライン策定 formulation of guidelines	2016.7 ファサード整備完了 completed facade reconstruction		
市駅前広場空間改良 improvement of Matsuyamashi-station square	松山市 Matsuyama City	市駅前広場の公共空間活用等に関するワークショップ workshop on Matsuyamashi-Station square	③WS 開催業務受託 workshop operation				
銀天街 L 字地区再生 redevelopment of Gintengai L-shaped area	地権者 landowners	銀天街 L 字地区再開発設計研究会 / 全体協議会 / 連絡協議会 study group/committee/ liaison committee for redevelopment of Gintengai L-shaped area	④合意形成・構想案策定支援 support consensus building and framework production	2017.2 連絡協議会の発足 set up of liaison committee			
	松山市 Matsuyama City	銀天街 L 字地区再開発検討専門委員会 special committee for redevelopment of Gintengai L-shaped area	2017.5 全体協議会の発足 set up of committee	2016.9 全体構想案策定 proposal of concept for the future	2017.4 市街地再開発準備組合設立 set up of preparation association		
	松山市 Matsuyama City	街なか再生サポーター会議 supporters' conference for renovation in city center	⑦計画策定支援 support plan production	2016.12 銀天街 L 字地区再開発等基本計画策定 (松山市) formation of Master Plan			
JR 松山駅周辺整備 redevelopment of JR station and its surroundings	松山市 Matsuyama City	松山駅周辺まちづくりに関する勉強会 workshop on renovation of JR station				③WS 開催支援 support workshop operation	
	松山市 Matsuyama City	公園整備の住民デザイン WS workshop on public space design				③WS 開催支援 support workshop operation	
一番町大通り景観整備 reconstruction of Okaido-arcade	地元組織 / 松山市 / 愛媛県 / 国土交通省 local organization / Matsuyama City / Ehime Pref. / MLJ	一番町大通り景観整備専門部会 special committee for Reconstruction of Okaido-arcade	④デザインアドバイス ghing design advice	2015.9 竣工 completion			
中心地区街路整備 road maintenance of central zone	地元組織 local organization	中心地区街路デパート再生 renovation of department store in city center		renewal advice of street lamp	③街灯更新アドバイス		
コンペティション competition	UDCM / 大学 UDCM/University	風景づくり夏の学校 summer school of landscape planning	⑤コンペ開催 holding competition			renovation advice ④再生アドバイス	
研究 study	UDCM	歴史文化まちづくり / 若手生業まち再生 / 松山交通研究会 study group for history and culture/city regeneration/transformation in Matsuyama city				⑥研究会開催 holding study group	
	UDCM	アーバンデザイン研究会 Urban Design Seminar				⑥研究会開催 holding seminar	
	UDCM	アーバンデザインフォーラム Urban Design Forum	⑦フォーラム開催 holding forum				
中心市街地賑わい再生社会実験 pilot program for revitalization of city center	松山市 Matsuyama City	ひろば・テラスの整備 establishment of open space and terrace	松山都市デザインワークショップ支援 support urban design workshop	みんなのひろばワークショップ支援 support Minnao-hiroba workshop	split program (initially scheduled period) 実験期間 (当初予定)	第1期延長 1st extension 第2期延長 2nd extension	
	松山市 Matsuyama City	ひろば・テラスの管理運営 operation of open space and terrace	④運営支援 operation support			①第1期業務受託 1st contract ②第2期業務受託 2nd contract	
	松山市 Matsuyama City	中心市街地賑わい再生社会実験専門部会 special committee of pilot program	⑤運営支援 operation support			第1期 1st term 第2期 2nd term 第3期 3rd term	
松山市アーバンデザインスクール Urban Design School in Matsuyama city	UDCM / 大学 UDCM/University	道後温泉を巡るまち歩き walking tour of spring source	まちの歴史写真館 pictorial history	プロジェクト 公園まちづくり public space utilization			
		商店街マップの製作 publication of shopping street map	商店街映画祭 local film festival	伊予餅でハンドメイド WS creating a regional brand "Iyo-Kasut"			
		愛媛食文化の情報発信 information transmission on local cuisine	コミュニティ再生プロジェクト community revitalization project	農業生産者と消費者の交流 agricultural exchange event			
		道後魅力発掘まち歩き walking tour for rediscovering location	家族で映画制作 families movie production	雑誌の魅力を発信 magazine publiction			
		子供向け発車台列車 mobile streetcar for children	移住者交流イベント exchange event for migrants	魅力発見！駅前商店街 exchange event on shopping street			
		鉄道コンテスト streetcar contest	駅前電車でクリスマス streetcar promotional event				
		まちなか広場で手づくりプール making sandbar pool in public space					
		スクールの情報発信 information transmission on IJIS					
		橋の春りて地域ブランディング creating a regional brand "Spring of Tsukushi"					
伊予市アーバンデザインスクール Urban Design School in Iyo city	伊予市 Iyo City	商店街でクリスマス equit rally on shopping street				第1期 1st term	
東進市アーバンデザインスクール Urban Design School in Toon city	東進市 Toon City	空き家リノベーション まちづくりラボ renovation of vacant house platform for collaboration				第1期 1st term 第2期 2nd term	
		地域食材で創作料理 original dishes using local ingredients					
		音でまちを巡る town of city sounds					
		伝統文化再発見 rediscover of traditional culture					
		防災まちづくり disaster prevention					
砥部町アーバンデザインスクール Urban Design School in Tobe town	砥部町 Tobe Town	プラットフォームで商店街を元気にする拠点づくり platform for shopping street 地元商店街を元気にする拠点づくり				第1期 1st term	
ラジオ番組 radio show	まち@ラヂ Machi@radi private enterprise	ラジオ番組運営 (週1回放送) radio show production (weekly)					
まちづくり雑誌 magazine	編集 WS editorial WS UDCM/private enterprise	WS 実施 WS implementation				第1回 1st 第2回 2nd 第3回 3rd	
	増刊号増刊号 UDCM/private enterprise	増刊号増刊号 magazine publication					

①受託型 (undertaking project), ②専門部会型 (special committee), ③公共への助言・指導型 (advice and guidance to public sector), ④民間への助言・コーディネート型 (advice and coordinate to private sector), ⑤自主事業型 (voluntary project)

図 UDCM の事業タイムライン

話し合いを通じて利用・運営ルールを設定し、時に粘り強い交渉を重ね理解を得てきた。

### ②多面的機能

- ・拠点施設は日常利用やイベント開催によってまちなかに賑わいをもたらす拠点であり、また、人が気軽に立ち寄れる交流拠点でもある。さらに、UDSや各種団体の活動が行われるまちづくり活動の拠点でもある。

### ③実証の場

- ・拠点施設を通じて、地域再生が促進されることが期待されるが、テラスとひろばの存在によってまちなかでの暮らしが豊かになるという点については一定の浸透が見られる。
- ・持続的な広場を実証・実現することが課題。

## 【地方中核市におけるアーバンデザインセンター】

利害関係が複雑に絡み合う地方中核市の既成市街地でUDCモデルを適用するに当たっては地元関係者からの信頼を得ることが肝要である。とくに以下の点が重要である。

- ①公民学の連携体制により担保された柔軟性を活かして公共・民間の都市空間整備事業に介在して目に見える成果を出すこと（連携による空間計画）
- ②様々な関係主体が利害を超えて共有できるビジョンを示し、地域内外の多様な主体の参画・協働のもとに事業実行すること（専門家の主導）
- ③拠点施設の利用や運営にあたっては地元関係者らとの話し合いを通じてルール設定すること（拠点と見える化）等が重要であること

（「小野 悠，尾崎 信，片岡 由香，羽鳥 剛史，羽藤 英二：地方中核市におけるアーバンデザインセンターの実践 松山アーバンデザインセンターを事例に，日本建築学会計画系論文集，第84巻第755号，pp.167～177，2019」を要約（一部引用）した）

資質	含意
連携による空間計画	公民学連携体制
	縦割り行政の横断
	行政と市民を助成や協働で結びつける仕組み
	地元団体との協働
専門家の主導	エリアマネジメントのハブ機能
	個別の施設設計を相互につなぎ、全体をまとめる
	専門的な設計過程を市民目線で監理
	地域で合意し実行するビジョンを主導
拠点と見える化	専従者を置き、他分野の技術者が適宜支援
	行政の首長支援と職員の能力向上
	まちに関する資料の保存、研究、公開
	一般市民を対象とした交流拠点
	再開発など当該事業の情報拠点
	社会的、空間的な都市再生拠点

表 UDCMの3つの資質

註：

※1 UDCMの3資質とは前田(2010)\*1およびアーバンデザインセンター研究会(2012)\*3において、「連携による空間計画」「専門家の主導」「拠点と見える化」の3点が挙げられている。これらの資質とその含意を整理した表が本論文Table.1である。以下にその日本語部分のみ抜粋して掲載する。

参考文献：

\*1 前田英寿：アーバンデザインセンターに関する経験的考察：一柏の葉アーバンデザインセンターの3年－，日本建築学会計画系論文集，第75巻第655号，pp.2203～2212，2010

\*2 前田英寿，北沢猛，丹羽由佳理，田中大朗，松尾真子，柏原沙織：公民学連携型アーバンデザインセンターによる地方小都市のまちづくり--福島県田村市田村地域デザインセンター(UDCT)，日本建築学会技術報告集，第16巻第32号，pp.339～344，2010

\*3 アーバンデザインセンター研究会：アーバンデザインセンター－開かれたまちづくりの場－，理工図書，2012



## 4. 全国まちなか広場研究会 & UDC 会議

### 1) フォーラム（パネルディスカッション）

2018年10月5日（土）、6日（日）の二日間、「第6回全国まちなか広場研究会」と「第6回アーバンデザインセンター会議」が松山にて同時開催された。

一日目に開催された「全国まちなか広場研究会」では、まず初めに松山市道路建設課遠藤氏より、松山市における公共空間整備の事例紹介が行われた。次に、UDCMディレクター尾崎からUDCMのこれまでの取り組み紹介を行った。その後のパネルディスカッション1では、UDCMディレクター尾崎がコーディネーターを務め、松山市のこれまでの公共空間整備の関係者4名とともに取り組みを振り返った。パネルディスカッション2では、全国まちなか広場研究会顧問の鳴海氏がコーディネーターとなり、登壇者4名とともに「新たな公共空間の創出に必要なパラダイムシフト」について議論した。

二日目に開催された「アーバンデザインセンター会議」では、新加盟のUDCの紹介と、テーマ別のトークセッションを行い、各UDC関係者間の交流を図った。

第6回 全国まちなか広場研究会  
第6回アーバンデザインセンター会議  
連携開催 in 松山 2018.10.5 Fri - 10.6 Sat  
まちの価値を高める公共空間をいかに創り出すか

**お申込み・お問合せ**

○会費 ①10.5会議（午前及び午後）：3000円  
②10.5懇親会：6000円  
③10.6現地見学会：3000円  
※懇親会、現地見学会は本会議参加後のみ参加を受け付けます  
※UDC実務者会議は一般参加は受け付けておりません

○お申込み方法  
以下のイベント専用サイトよりお申込みください  
（※サイト準備中、右QRコードより申し込みフォームへ）

○お問合せ先  
全国まちなか広場研究会事務局 担当：山下  
E-mail: machinakahiroba@gmail.com  
HP: http://machinakahiroba.main.jp  
Facebook: https://www.facebook.com/machinakahiroba

一般社団法人UDCイニシアチブ 担当：三枝  
E-mail: info@udc-initiative.com  
HP: http://udc-initiative.com

**プログラム**

**10.5 Fri**

10:00-12:00 公共空間の「質」研究部会シンポジウム（@松山市民会館）  
主催：一般社団法人国土政策研究会、公共空間の「質」研究部会  
まちなか広場実習形式  
パネルディスカッション「広場の価値を高める現場力」

12:00-13:00 芝生交流会（ランタイム@福山公園場之内芝生広場）

13:30-18:00 本会議（@松山市民会館）  
13:30- 開会式  
13:45- 松山市における公共空間整備 事例紹介  
14:15- UDCMの活動紹介  
14:45- パネルディスカッション1  
「公共空間を人の集まる場に 松山のまちなか再生」  
15:20- パネルディスカッション2  
「新たな公共空間の創出に必要なパラダイムシフト」  
17:45- 閉会式

18:00-19:00 芝生交流会（ドリンクタイム@福山公園場之内芝生広場）

19:00-21:00 懇親会（@東京第一ホテル松山）

**10.6 Sat**

9:00-11:30 現地見学会  
花園通り/みんなのひろば/ロープウェイ通り/温泉温泉

13:00-16:00 UDC実務者会議（@愛媛大学 校友会館二階会議室）  
※一般参加は受け付けておりません。

図 研究会 & 会議のフライヤー



写真 パネルディスカッションの様子

## 2) 現地見学会

「全国まちなか広場研究会」と「アーバンデザインセンター会議」の参加者のうち、事前応募のあった70名に対し、松山市中心市街地におけるこれまでの都市整備、まちづくりの取組を紹介する現地見学会を企画実施した。

見学会は、松山市において近年整備された、花園町通り、みんなのひろば、大街道商店街、ロープウェー通り、道後温泉を歩いてめぐるツアー形式で、5つにグループ分けされた参加者をUDCM学生スタッフがアテンドし、各スポットにて松山市職員等がその詳しい説明にあたった。



写真 現地見学会の様子(道後)



写真 現地見学会の様子(大街道)

第6回全国まちなか広場研究会 / 第6回アーバンデザインセンター会議

# 現地見学会

都市空間再編事例を巡る松山まちあるきツアー

**2018.10.6 Sat 9:00-11:30**

松山市の中心部にある5つの商店街や、歴史・文化を感じられる道後は、まちの賑わいを生み出している。これら松山の賑わいを支える多岐にわたる都市空間再編事例に着目し、「5つの商店街」と「道路空間」の大きな2テーマでまちあるきを行う。

ルート A1・A2  
「まちなか商店街を巡るツアー」

松山の中心市街地にある5つの商店街の歴史や空間、賑わい創出の取り組みにスポットを当てたまちあるき

ルート B1・B2・B3  
「道後とまちなかの道路空間を巡るツアー」

道後やまちなか商店街の歴史、道路空間改善事業にスポットを当てたまちあるき

**現地見学会 ルート**

下記5ルートより、興味のあるルートをつお選びください。

ルート A1 (定員15名)	ルート A2 (定員15名)	ルート B1 (定員15名)	ルート B2 (定員15名)	ルート B3 (定員15名)
集合 子連れ広場	集合 大街道一番口	集合 道後温泉駅前	集合 道後温泉駅前	集合 UDCM
花園町通り	ロープウェー街	伊佐野神社	伊佐野神社	みんなのひろば
徳大寺商店街	大街道商店街	上人堀	上人堀	ももろアラス
みんなのひろば	徳大寺商店街	道後温泉本館	道後温泉本館	花園町通り
ももろアラス	みんなのひろば	飛鳥乃湯泉	飛鳥乃湯泉	飛鳥乃湯泉
徳大寺商店街	ももろアラス	ロープウェー街	ロープウェー街	道後温泉本館
大街道商店街	徳大寺商店街	大街道商店街	大街道商店街	上人堀
ロープウェー街	花園町通り	みんなのひろば	みんなのひろば	伊佐野神社
解散 大街道温泉駅前	解散 子連れ広場	解散 UDCM	解散 UDCM	解散 道後温泉駅

■当日の緊急連絡先 090-1522-0561 (担当:UDCM 西戸)

図 現地見学会のフライヤー



写真 現地見学会の様子(大街道)





## おわりに

5年目を迎えたUDCMは、新たなメンバー四戸秀和さん、板東ゆかりさんを加えて、さらに活動が広がっていった。これまでの湊町から花園町に移転し、2019年1月20日に「もぶるラウンジ」をオープンし、新たなチャレンジが始まっている。

まず、空間デザインマネジメントに関しては、道後温泉本館の保存修理工事にともなう交通影響緩和策を立案するとともに、道後ファザード整備事業を行ってきた。そして何より昨年度の「移動する建築」都市設計コンペで入賞した「街の中の雲」を継続してまちづくり活動に活かしていけるように地元組織との協力体制のもと支援してきた。UDCMの自主事業が地域にねづいていくプロセスの見本的な取り組みにしていきたい。また、松山市駅前広場構想が2018年9月に公表され、地元組織の動きも活発になりつつある。それにあわせて松山市駅前商店街の再開発について、地元組織との勉強会を定期的に開催し、エリアマネジメント団体の結成に向けての活動支援を始めている。JR松山駅周辺整備事業では市民によるソフト的な活動展開を支援してきたが、その動きを継続してサポートしていただくことが空間整備の支援とともに必要となってくる。ビジョン構築についてはこれまでアーバンデザイン研究会を開催して様々な専門家の意見を聞く機会を設けてきたが、松山市内の駅周辺（中心市街地、郊外）の空間の将来像を検討するために松山2050スタジオを2019年3月に立ち上げた。これから2年間にわたるビジョンにむけて本格的にうごき始めた。

プログラムデザインに関しては、4年目をむかえるアーバンデザインスクールは基礎編、実践編に分けて実施することで、松山市街地でのまちづくり活動をすすめるとともに人材のすそ野を広げる効果があった。中心市街地賑わい再生社会実験では2018年11月までは引き続きもぶるテラス、みんなのひろばにおいて賑わいづくりに貢献し、その後、花園町のもぶるラウンジで新たな拠点の運営に取り組み始めた。これまでのもぶるテラス、みんなのひろばの社会実験の効果について定量的に検証していくとともに、花園町の道路空間における滞留、賑わいづくりにむけて新たなプログラムのチャレンジを進めていくこと

が求められる。

松山市の中心市街地の活性化は依然として継続的課題であるとともに、伊予鉄松山市駅、JR松山駅の周辺整備も具体化しつつあり、道後温泉は保存修理工事に入っている。松山の次の100年の社会基盤整備時期をむかえている。ひと育ても含め、引き続き、公民学の連携のもとに、着実な成果を目指して活動・研究を進めていきたい。

UDCM 副センター長 松村 暢彦

## 活動履歴

### 【4月】

2018.04.04：第153回「まち@ラヂ」放送  
 2018.04.05：視察（広島大学・田中貴宏教授）  
 2018.04.06：湊町三丁目C街区地区第一種市街地再開発事業  
 公益施設に関する準備会議  
 2018.04.06：産経新聞ミュージアムカフェ  
 2018.04.09：UDCM 学生スタッフミーティング  
 2018.04.10：編集ワークショップ  
 2018.04.11：第154回「まち@ラヂ」放送  
 2018.04.18：第155回「まち@ラヂ」放送  
 2018.04.24：第33回UDCM 運営会議  
 2018.04.24：編集ワークショップ  
 2018.04.25：第156回「まち@ラヂ」放送  
 2018.04.26：第40回社会実験運営委員会  
 2018.04.28：日本計画行政学会@もぶるテラス

### 【5月】

2018.05.02：第157回「まち@ラヂ」放送  
 2018.05.04：もぶる鉄道部第4回走行会「しこくれっしゃ大集  
 合！ー全種集合！JR四国の仲間たちー」  
 2018.05.07：松山チャレンジャーズドック（仮）準備会議  
 2018.05.08：全国エリアマネジメントネットワークシンポジウム  
 in Hiroshima（尾崎登壇）  
 2018.05.09：第158回「まち@ラヂ」放送  
 2018.05.10：編集ワークショップ  
 2018.05.12-05.13：松山アーバンデザインスクール基礎編  
 2018.05.14：視察（八千代エンジニアリング）  
 2018.05.16：第159回「まち@ラヂ」放送  
 2018.05.17：ひろば前通行量・交通量調査  
 2018.05.18：視察（東京都市大学・林和真専任講師）  
 2018.05.20：ひろば前通行量・交通量調査  
 2018.05.21：第34回UDCM 運営会議  
 2018.05.22：編集ワークショップ  
 2018.05.23：第160回「まち@ラヂ」放送  
 2018.05.24：視察（呉市役所）  
 2018.05.25：松山アーバンデザインスクール実践編（第1回）  
 2018.05.25：防災情報研究センター活動報告会  
 2018.05.30：第161回「まち@ラヂ」放送  
 2018.05.30：道後温泉観光会館再生整備検討委員会  
 2018.05.31：第41回社会実験運営委員会  
 2018.05.31：松山アーバンデザインスクール実践編（第2回）

### 【6月】

2018.06.01-30：もぶる句会  
 2018.06.02：花園町通行量調査  
 2018.06.04：視察（東京大学・羽藤英二研究室）

2018.06.05：松山銀天街L字地区再開発連絡協議会理事会  
 2018.06.06：第162回「まち@ラヂ」放送  
 2018.06.07：花園町通行量調査  
 2018.06.09：第57回土木計画学研究発表会・春大会スペシャ  
 ルセッション（尾崎投稿・登壇）  
 2018.06.11：UDCM 学生スタッフミーティング  
 2018.06.13：第163回「まち@ラヂ」放送  
 2018.06.14：視察（清水みなとまちづくり公民連携協議会）  
 2018.06.14：松山市 立地適正化 及び交通網形成検討協議会  
 第6回鉄軌道検討部会  
 2018.06.16：リノベーションまちづくりトーク  
 2018.06.17：もぶる句会～作ってみよう編～  
 2018.06.20：第164回「まち@ラヂ」放送  
 2018.06.20：道後誇れるまちづくり推進協議会総会  
 2018.06.20：もぶるマガジン vol.8  
 2018.06.21：編集ワークショップ  
 2018.06.22：松山銀天街L字地区再開発連絡協議会定時総会  
 2018.06.23：夜市イベント「もぶる屋台」  
 2018.06.23-06.24：UDC アーバニスト養成講座@柏（尾崎登壇）  
 2018.06.27：第165回「まち@ラヂ」放送  
 2018.06.28：第42回社会実験運営委員会  
 2018.06.30：納涼イベント「夏だ！海だ！あ、噴水だ」  
 2018.06.30：国際交通安全学会誌掲載「街路におけるつくる／  
 つくらないデザインの動向」（尾崎投稿）

### 【7月】

2018.07.02：松山チャレンジャーズドック（仮）準備会議  
 2018.07.04：第166回「まち@ラヂ」放送  
 2018.07.05：アジア都市景観大賞現地説明（尾崎）  
 2018.07.05：視察（宇都宮市）  
 2018.07.06：松山アーバンデザインスクール実践編（第3回）  
 2018.07.08：第4回グローバルビジネス学会（羽鳥、片岡他投稿）  
 2018.07.09：視察（墨田区役所）  
 2018.07.11：第167回「まち@ラヂ」放送  
 2018.07.12：UDCM 学生スタッフミーティング  
 2018.07.13：第35回UDCM 運営会議  
 2018.07.14：納涼イベント「夏だ！海だ！あ、噴水だ」  
 2018.07.15-08.22：花園町来街者アンケート調査（通常時）  
 2018.07.18：第168回「まち@ラヂ」放送  
 2018.07.19：道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会  
 2018.07.21：夜市イベント「もぶる屋台」  
 2018.07.24：松山銀天街振興組合勉強会  
 2018.07.25：第169回「まち@ラヂ」放送  
 2018.07.26：第43回社会実験運営委員会  
 2018.07.28：納涼イベント「夏だ！海だ！あ、噴水だ」  
 2018.07.30：松山市 立地適正化 及び交通網形成検討協議会

第7回公共交通利用促進検討部会  
2018.07.31：星空散歩～火星大接近の日～

【8月】  
2018.08.01：松山アーバンデザインスクール実践編（第4回）  
2018.08.01：第170回「まち@ラヂ」放送  
2018.08.06：編集ワークショップ  
2018.08.07：夏の自由研究お助け隊～実験編～  
2018.08.08：第171回「まち@ラヂ」放送  
2018.08.08：道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会  
2018.08.09：UDCM 学生スタッフミーティング  
2018.08.09：松山アーバンデザインスクール実践編（第5回（中間発表））  
2018.08.10：第1回道後温泉活性化懇談会  
2018.08.12：もぶる鉄道部第5回走行会「しこくれっしゃ大集合！～瀬戸大橋開通30周年！瀬戸大橋線の仲間たち～」  
2018.08.14-9.15：もぶる鉄道部展示企画  
2018.08.15：第172回「まち@ラヂ」放送  
2018.08.20：夏の自由研究お助け隊～工作編～  
2018.08.21：編集ワークショップ  
2018.08.22：第173回「まち@ラヂ」放送  
2018.08.24：第36回UDCM運営会議  
2018.08.24：松山銀天街L字地区再開発連絡協議会理事会  
2018.08.27：松山市 立地適正化 及び交通網形成検討協議会 第8回公共交通利用促進検討部会  
2018.08.29：第174回「まち@ラヂ」放送  
2018.08.30：第44回社会実験運営委員会

【9月】  
2018.09.01-09.17：敬老の日！手づくりメッセージカード企画  
2018.09.05：UDCM 学生スタッフミーティング  
2018.09.05：松山アーバンデザインスクール実践編（第6回）  
2018.09.05：視察（神奈川県議会）  
2018.09.05：第175回「まち@ラヂ」放送  
2018.09.11：編集ワークショップ  
2018.09.12：第176回「まち@ラヂ」放送  
2018.09.15-10.24：もぶる鉄道部展示企画「南予を走る電車たち」  
2018.09.16：ひろば前通行量・交通量調査  
2018.09.16：花園町来街者アンケート調査（イベント時）  
2018.09.19：第177回「まち@ラヂ」放送  
2018.09.19：第1回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会  
2018.09.20：ひろば前通行量・交通量調査  
2018.09.21：産経新聞ミュージアムカフェ  
2018.09.24：第2回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会

強会  
2018.09.25：第37回UDCM運営会議  
2018.09.26：第178回「まち@ラヂ」放送  
2018.09.26：第1回松山駅前商店街まちづくり事業勉強会  
2018.09.27：第45回社会実験運営委員会  
2018.09.28：もぶるマガジン vol.9  
2018.09.28：第1回道後温泉活性化懇談会（観光資源化関係）

【10月】  
2018.10.02：UDCM 学生スタッフミーティング  
2018.10.02：花園町通行量調査  
2018.10.02：編集ワークショップ  
2018.10.03：第179回「まち@ラヂ」放送  
2018.10.03：グッドデザイン賞受賞（花園町通り）  
2018.10.03：グッドデザイン賞受賞（道後温泉別館飛鳥乃湯泉）  
2018.10.03：グッドデザイン賞受賞（移動する建築）  
2018.10.04-10.06：全国まちなか広場研究会 &UDC 会議（第6回）  
2018.10.05：全国まちなか広場研究会（尾崎登壇）  
2018.10.07：花園町通行量調査  
2018.10.09：松山アーバンデザインスクール実践編（第7回）  
2018.10.09：松山銀天街L字地区再開発連絡協議会理事会  
2018.10.10：第180回「まち@ラヂ」放送  
2018.10.16：第3回松山駅周辺土地利用勉強会  
2018.10.16：編集ワークショップ  
2018.10.16：第3回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会  
2018.10.17：視察（人事院）

2018.10.17：第181回「まち@ラヂ」放送  
2018.10.20-11.20：テラス・ひろば利用者アンケート調査  
2018.10.23：第1回松山駅周辺景観まちづくりセミナー  
2018.10.23：第2回松山駅前商店街まちづくり事業勉強会  
2018.10.24：松山アーバンデザインスクール実践編（第8回）  
2018.10.24：第182回「まち@ラヂ」放送  
2018.10.25：第46回社会実験運営委員会  
2018.10.26：河原デザイン・アート専門学校教育課程編成委員会  
2018.10.27-31：まちなかてくてくハロウィン「こうもりますくをつくろう！」  
2018.10.29：第4回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会  
2018.10.31：第183回「まち@ラヂ」放送

【11月】  
2018.11.01：UDCM 学生スタッフミーティング  
2018.11.02-03：まつやま文具マルシェ  
2018.11.03：スクールイベント（夕焼けベンチ in 宝蔵寺）



2018.11.03：スクールイベント（星空カフェ）  
 2018.11.06：松山アーバンデザインスクール実践編（第9回）  
 2018.11.06：スクールイベント（夕焼けベンチ in 宝蔵寺）  
 2018.11.07：第184回「まち@ラヂ」放送  
 2018.11.09：第9回松山市中心市街地賑わい再生社会実験専門部会  
 2018.11.09：スクールイベント（夕焼けベンチ in 宝蔵寺）  
 2018.11.09：第12回都市再生協議会  
 2018.11.09：第2回道後温泉活性化懇談会（観光資源化関係）  
 2018.11.13：編集ワークショップ  
 2018.11.14：第185回「まち@ラヂ」放送  
 2018.11.14：第3回松山市駅前商店街まちづくり事業勉強会  
 2018.11.14：道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会  
 2018.11.16：第47回社会実験運営委員会  
 2018.11.16：スクールイベント（夕焼けベンチ in 宝蔵寺）  
 2018.11.17：スクールイベント（夕焼けベンチ in 宝蔵寺）  
 2018.11.18：クロージングイベント「ありがとう!もぶるテラスおわかれ会」  
 2018.11.18：スクールイベント（俳句スープ）  
 2018.11.19：第1回道後温泉活性化懇談会（交通関係）  
 2018.11.20：松山アーバンデザインスクール実践編（第10回）  
 2018.11.20：視察（URリンケージ）  
 2018.11.21：第186回「まち@ラヂ」放送  
 2018.11.21：第2回松山駅周辺景観まちづくりセミナー  
 2018.11.22：視察（札幌駅前通まちづくり株式会社）  
 2018.11.23：星空散歩 in 道後  
 2018.11.23：スクールイベント（夕焼けベンチ in 宝蔵寺）  
 2018.11.24：スクールイベント（夕焼けベンチ in 宝蔵寺）  
 2018.11.24：スクールイベント（Washi Sky Project）  
 2018.11.25：岡山市マチナカギカイ（尾崎登壇）  
 2018.11.26：第2回道後温泉活性化懇談会  
 2018.11.26：松山銀天街L字地区1,2街区勉強会  
 2018.11.28：第187回「まち@ラヂ」放送  
 2018.11.30：スクールイベント（星空カフェ）

#### 【12月】

2018.12.01：スクールイベント（光の展覧会 in 柳井町）  
 2018.12.02：スクールイベント（Washi Sky Project）  
 2018.12.04：松山アーバンデザインスクール実践編（第11回）  
 2018.12.04：編集ワークショップ  
 2018.12.05：第188回「まち@ラヂ」放送  
 2018.12.07：視察（長崎大学・西岡誠治教授）  
 2018.12.08：松山アーバンデザインスクール実践編（第12回（最終発表））  
 2018.12.11：UDCM 学生スタッフミーティング  
 2018.12.12：第189回「まち@ラヂ」放送

2018.12.12：第4回松山市駅前商店街まちづくり事業勉強会  
 2018.12.13：花園まちづくりプロジェクト協議会  
 2018.12.14：産経新聞ミュージアムカフェ  
 2018.12.14：松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会活動実践（よるまち）  
 2018.12.17：UDCM 新拠点プレオープン  
 2018.12.19：第190回「まち@ラヂ」放送  
 2018.12.20-12.22：スクールイベント（光の展覧会 in 柳井町）  
 2018.12.25：もぶるマガジン vol.10  
 2018.12.25：編集ワークショップ  
 2018.12.26：第191回「まち@ラヂ」放送

#### 【1月】

2019.01.01：日本建築学会計画系論文集掲載「地方中核市におけるアーバンデザインセンターの実践 松山アーバンデザインセンターを事例に」（小野、尾崎他投稿）  
 2019.01.02：第192回「まち@ラヂ」放送  
 2019.01.09：第193回「まち@ラヂ」放送  
 2019.01.12：声優ワークショップ  
 2019.01.13：声優ワークショップ  
 2019.01.15：編集ワークショップ  
 2019.01.16：UDCM 学生スタッフミーティング  
 2019.01.16：視察（軽井沢市役所）  
 2019.01.16：第194回「まち@ラヂ」放送  
 2019.01.16：第5回松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会  
 2019.01.17：ひろば前通行量・交通量調査  
 2019.01.17：第38回UDCM 運営会議  
 2019.01.18：JR松山駅まち会議作業部会（第1回）  
 2019.01.20：UDCM + 松山ブンカ・ラボ オープニングセレモニー  
 2019.01.20：UDCM 新拠点オープニング企画「こたつ de みかん」  
 2019.01.20：ひろば前通行量・交通量調査  
 2019.01.20-02.28：オープニング企画展示「まちづくり拠点とりノベーションデザイン」  
 2019.01.21-02.11：周辺住民アンケート  
 2019.01.23：第195回「まち@ラヂ」放送  
 2019.01.23：第5回松山市駅前商店街まちづくり事業勉強会  
 2019.01.27：まつやま子ども図書フォーラム（板東登壇）  
 2019.01.27：いい樅の日イベント  
 2019.01.30：第196回「まち@ラヂ」放送  
 2019.01.30：編集ワークショップ

#### 【2月】

2019.02.02：花園町通行量調査  
 2019.02.05：花園町通行量調査

2019.02.06：第197回「まち@ラヂ」放送  
2019.02.06：NPO アーバンデザインネットワーク設立総会  
2019.02.08：議員勉強会（四戸登壇）  
2019.02.12：JR 松山駅まち会議（第1回）  
2019.02.13：第198回「まち@ラヂ」放送  
2019.02.14：道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会  
2019.02.15：UDCM 学生スタッフミーティング  
2019.02.16：声優ワークショップ  
2019.02.17：お城下マルシェ企画「こたつ de みかん」  
2019.02.17：もぶるラウンジでも柑橘大作戦  
2019.02.17：声優ワークショップ  
2019.02.18：視察（鳥取県庁）  
2019.02.19-03.04：花園町店舗アンケート  
2019.02.20：第199回「まち@ラヂ」放送  
2019.02.21：編集ワークショップ  
2019.02.23：声優ワークショップ  
2019.02.24：声優ワークショップ  
2019.02.27：第200回「まち@ラヂ」放送  
2019.02.27：第6回松山市駅前商店街まちづくり事業勉強会  
2019.02.27：河原デザイン・アート専門学校プレゼンテーション  
2019.02.28-03.11：テラス・ひろば利用者アンケート調査（施設閉鎖後）

### 【3月】

2019.03.01：視察（cite さろん）  
2019.03.05：UDCM 学生スタッフミーティング  
2019.03.05：JR 松山駅まち会議作業部会（第2回）  
2019.03.05：視察（信州大学・佐倉弘祐助教）  
2019.03.06：第201回「まち@ラヂ」放送  
2019.03.08：松山商工会議所 産業振興委員会（尾崎登壇）

## メディア掲載リスト

年月日	媒体名	掲載内容
2018.4.6	産経新聞	移動する建築（坂の上の雲ミュージアムカフェ）
2018.5.13	愛媛新聞	かやまちクラブ「親子フラワーアレンジメント」
2018.5.14	愛媛新聞	アーバンデザインスクール
2018.6.22	愛媛新聞	リノベーションまちづくりトーク
2018.6.29	産経新聞	アーバンデザインスクール（坂の上の雲ミュージアムカフェ）
2018.8.5	愛媛新聞	道後オンセナート
2018.9.21	産経新聞	「街の中の雲」（坂の上の雲ミュージアムカフェ）
2018.10.4	愛媛新聞	グッドデザイン賞
2018.11.20	愛媛新聞	もぶるテラスの閉鎖イベント
2018.11.22	愛媛新聞	かやまちクラブ「サンドイッチ作り」
2018.12.3	愛媛新聞	アーバンデザインスクール「星空カフェ@城山公園」
2018.12.5	愛媛新聞	アーバンデザインスクール「和紙 スカイ プロジェクト@花園町」
2018.12.14	産経新聞	もぶるテラス（坂の上の雲ミュージアムカフェ）
2018.12.17	愛媛新聞	アーバンデザインスクール活動報告会
2019.1.24	愛媛新聞	もぶるラウンジ開設
2019.2.1	愛媛新聞	松山子供読書フォーラム
2019.2.24	愛媛新聞	「街の中の雲」
2019.2.24	愛媛新聞	ラジオラマ収録
2019.3.15	産経新聞	道後温泉本館改修（坂の上の雲ミュージアムカフェ）



## UDCM 運営体制

